A map of Tsuru City, Shiga Prefecture, Japan. The city is shown in light green, with a blue lake (Biwa Lake) to its east. A red line, likely a proposed railway route, runs north-south through the city. Other lines in black, green, and blue represent existing infrastructure. The title text is positioned to the right of the map.

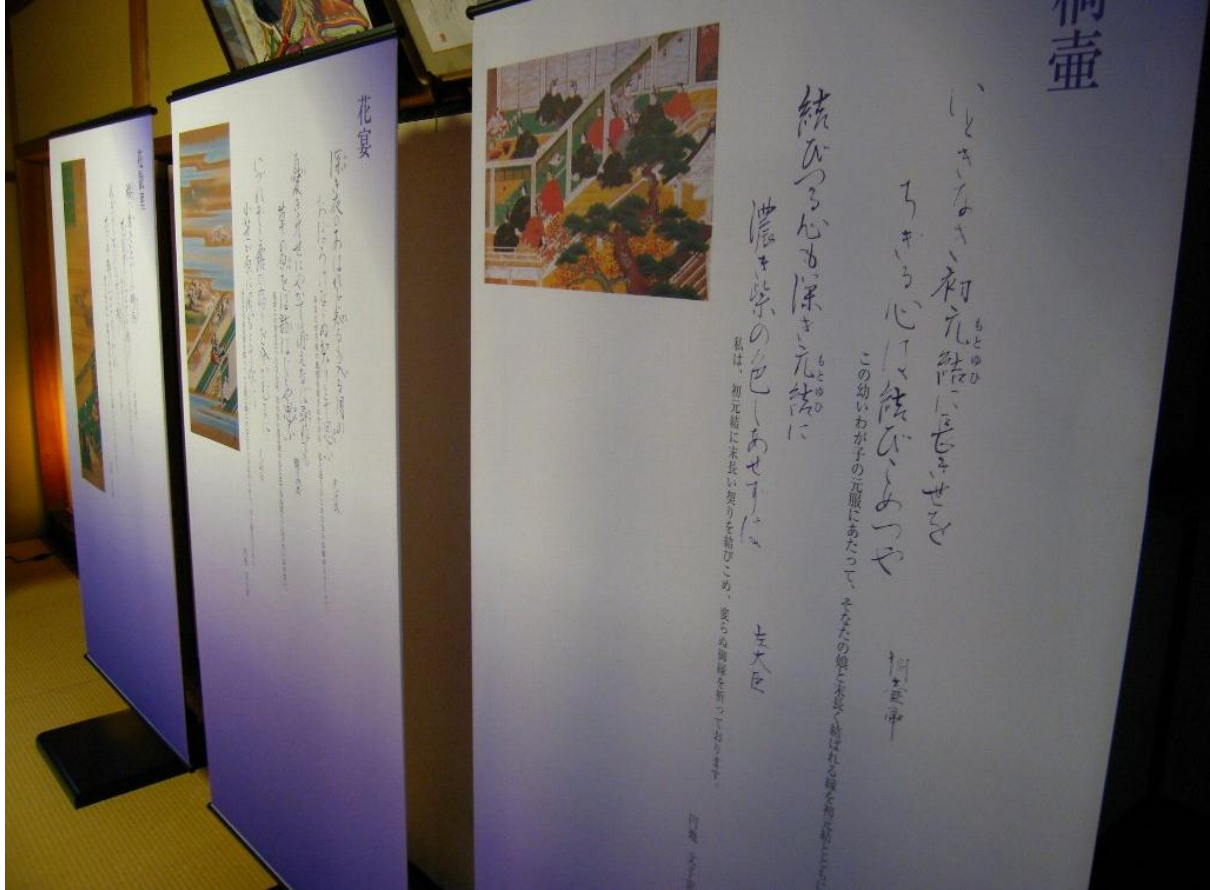
観光ルネサンス事業基礎調査報告書

(滋賀県大津市)

平成20年3月

国土交通省近畿運輸局

総合調査設計(株)



(写真) 源氏物語千年紀 i n 湖都大津事業のプレイベントパネル (石山寺)

業務の目的

大津市は琵琶湖の南西岸に位置し、琵琶湖とともに比良山、比叡山などの豊かな自然環境を有するほか、1994年（平成6年）にユネスコの世界文化遺産に登録された比叡山延暦寺をはじめとして、古代には大津京が置かれるなど、歴史・文化環境にも恵まれた地である。しかしながら大津市の観光入込客数を見ると、ここ数年伸び悩んでおり、ひいては地域産業の停滞などにより地域社会の活力が低下することが懸念される。

こうした状況の中、大津市では2008年（平成20年）11月に源氏物語の存在が記録上確認されてから一千年を迎えることから、来年3月より「源氏物語千年紀 i n 湖都大津事業」として、大津市石山地区を中心に多彩な取組を実施、展開していくこととしている。

以上の背景をふまえ、本業務では観光交流人口の拡大を通じた地域の活性化を目的として、大津市における観光状況から課題等の整理を行うとともに、課題解決に向けた対策として大津市を中心とした回遊型観光モデル（地域観光圏）や地域における案内情報ネットワークのあり方について調査、検討を行うものとする。

目 次

業務の概要

第Ⅰ章 大津市における観光の現状

Ⅰ-1. 大津市の概要

（１）大津市の概要・・・・・・・・・・・・・・・・	1
①人口・・・・・・・・・・・・・・・・	2
②観光と交通機関利用形態・・・・・・・・	2
③公共交通の現況・・・・・・・・	3
（２）大津市の観光資源（もの、人、自然、イベント）	
①大津市の観光資源－１・・・・・・・・	4
②大津市の観光資源－２・・・・・・・・	6
③大津市の観光資源－３・・・・・・・・	7
（３）滋賀県の観光状況	
①概要・・・・・・・・	9
②地域別観光旅客者・・・・・・・・	11
（４）近畿における宿泊状況・・・・・・・・	12
（５）大津市の観光状況	
①市全域の観光入込数の動向・・・・・・・・	13
②地区別の観光動向・・・・・・・・	14
③平成１８年における観光入込客数と観光形態	
＜月別の入込数＞・・・・・・・・	17
＜宿泊数＞・・・・・・・・	18
＜宿泊状況＞・・・・・・・・	19
＜外国人観光旅客者入込数推移＞・・・・・・・・	20
④目的別入込客数・・・・・・・・	21
⑤他都市との比較・・・・・・・・	22
⑥観光流動・・・・・・・・	23
⑦大津市における ATA	
（エリア・ツーリズム・エージェンシー）・・・・・・・・	24

Ⅰ-2. 関連計画の整理

（１）大津市総合計画・・・・・・・・	25
（２）大津市総合計画 第１期実行計画 結（ゆい）プラン・・・・・・・・	25
（３）大津市観光振興基本計画・・・・・・・・	26
（４）古都大津の風格ある景観をつくる基本計画・・・・・・・・	27
（５）大津市産業振興ビジョン・・・・・・・・	27

(6) 滋賀県観光振興指針湖国観光交流ビジョン・・・・・・・・・・	28
I-3. 大津市における観光活性化に向けた課題の整理	
(1) 観光状況から見る問題点の整理・・・・・・・・・・	29
(2) 観光活性化に向けた課題の整理・・・・・・・・・・	31
 第Ⅱ章. 大津市における回遊型観光モデルの検討	
Ⅱ-1. 観光圏の検討	
(1) 大津市を取り巻く観光圏形成に向けた背景・・・・・・・・	35
(2) 国際競争力の向上を促進する 国土施策の動向と取り組みの方向性・・・・・・・・	36
(3) 大津市における回遊型観光モデルの検討・・・・・・・・	38
(4) 観光圏の形成に向けた課題の整理・・・・・・・・	42
 Ⅱ-2. 観光案内ネットワークの検討	
(1) IT 器機を利用した観光案内の背景・・・・・・・・	43
(2) IT 機器を利用した観光案内の動向・・・・・・・・	45
(3) IT 器機を利用した観光案内の事例調査・・・・・・・・	46
(4) 大津市における観光案内手法の検討	
①既存案内サインの概要・・・・・・・・	49
②既存案内サインを活用した情報・・・・・・・・	49
③IT 機器と既存サインの連携 (QR コードを活用した観光案内情報システム構成案)・・・・・・・・	50
④大津市における観光案内情報システムの位置づけ・・・・・・・・	50
⑤既存の案内サインを活用した 新たな観光システムの構築に伴う今後の課題・・・・・・・・	51
 第Ⅲ章. 石山地区における案内誘導モデルの検討	
Ⅲ-1. 石山地区を対象地区とした案内誘導モデル・・・・・・・・	53
Ⅲ-2. 石山地区における観光の現状整理	
(1) 石山地区の状況と観光振興に向けた課題	
①観光振興の課題・・・・・・・・	54
②良質な風景の保全・・・・・・・・	54
③京阪石山寺駅から石山寺までの円滑な誘導・・・・・・・・	54
(2) 現地調査(石山寺参道／京阪石山寺～石山寺間)・・・・・・・・	55
(3) 石山寺及び周辺の観光資源・・・・・・・・	58
(4) 石山地区の観光状況(観光入込数の動向)・・・・・・・・	59
(5) 実態調査から見る石山地区の観光形態	
①観光旅客者属性：居住地・・・・・・・・	60

②観光旅客者属性：年齢／③属性：交通手段	61
④大津に来た回数／⑤旅行目的	62
⑥旅行形態／⑦旅行期間	63
⑧利用宿泊施設／⑨予算	64
⑩旅行プランの決定／⑪土産品について	65
⑫観光満足度	66
(6) 石山地区における観光状況の整理と今後の課題	66

Ⅲ-3. 石山地区における案内誘導モデルの検討

(1) 案内誘導手法及びサイン整備の考え方	
①石山寺参道の状況	67
②空間系サインと IT 機器の活用	67
(2) 案内誘導手法の検討	69

第Ⅰ章. 大津市における観光の現状

I-1. 大津市の概要

(1) 大津市の概要

大津市は琵琶湖の南西岸に位置し、琵琶湖とともに比良山、比叡山などの豊かな自然環境を有するほか、1994年（平成6年）にユネスコの世界文化遺産に登録された比叡山延暦寺をはじめとして、古代には大津京が置かれるなど、歴史・文化環境にも恵まれた地である。

地名の通り湖上交通の玄関口である大津市は、京阪神、東海、北陸を結ぶ交通の結節部に立地することからも、古来より人と物資の交流によって栄えてきた。

2003年（平成15年）10月には、全国10番目の古都として政令指定され、その後、古都大津の歴史的風土を保存するため、「比叡山・坂本地区」「近江大津京跡地区」「園城寺地区」「音羽山地区」「石山寺地区」の5地区（4,557ha）を大津市歴史的風土保存区域として指定されている。また、古都としての風格・魅力を守り育てていくため、2004年（平成16年）12月に施行された景観法に基づいて2006年（平成18年）2月には「大津市景観計画」を策定し、その歴史と自然にふさわしい景観形成に取り組んでいる。

大津市は、琵琶湖をはじめとした風光明媚な自然環境、古くから蓄積する歴史的な資源、山や湖でのレジャーやレクリエーション、古都としての格式のある風景といった多くの観光資源が内在し、また、びわ湖花火大会をはじめとして資源を活用したイベントが各地で開催されているなど、近畿圏において観光要素が集積する都市として位置づけられる。



(図表) 上左：延暦寺／上中央：浮御堂／上右：石山寺／下左：三井寺「園城寺（おんじょうじ）」

下中央：大津港 下右：瀬田の唐橋 出典：(社) びわ湖大津観光協会ホームページ

①人口

人口は32万7千人（平成18年版「大津市統計年鑑」より）で、隣接する京都市や大阪市のベッドタウンとしての機能も有している。

＜人口の増加と人口構造の変動＞

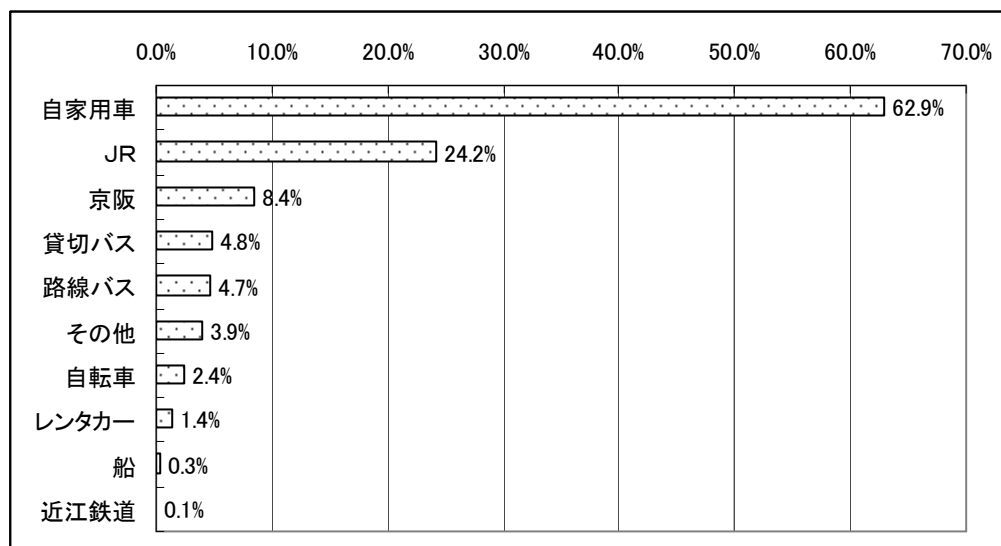
出典：「大津市公共交通活性化基本計画（平成17年7月策定）」

- ◆ 本市の人口は、全国有数の増加率で増加を続けているが、平成2年以降、人口増加率は鈍化している。
- ◆ 東部地域及び北部地域の人口増加は著しいが、京阪沿線の人口増加率は低く、都心部では人口が減少している。
- ◆ 全市的に人口の高齢化・少子化が進行しているが、京阪沿線の方が進行の度合いが高く、都心部では超高齢化・少子化社会となっている。

②観光と交通機関利用形態

出典：「大津市公共交通活性化基本計画（平成17年7月策定）」

- ◆ 本市は、自然環境や歴史環境に恵まれているが、小人数観光、体験型観光、街なか観光等が増加する中で、本市の観光入込客数は停滞している。
- ◆ 観光目的の来訪の交通手段を坂本地区の例でみると、その過半は自家用車で占めている。



（図表）利用交通機関（大津・志賀） 出典：「平成17年滋賀県観光動態調査報告書」

③公共交通の現況

出典：「大津市公共交通活性化基本計画（平成17年7月策定）」

- ◆ 本市には、JRが9駅、京阪電車が24駅ある。鉄道については、JRも京阪電車も、比較的運行頻度が高い。
- ◆ 路線バスのネットワークも比較的充実している。路線バスについては、都心部やバスターミナル機能が高い鉄道駅の近くでは、運行頻度が高いが、郊外部では、運行頻度の少ないバス路線も多い。
- ◆ JRの利用者数は、全般的に増加傾向にあったが、最近5年間ににおいては、減少に転じている駅が多い。しかし、全体的に見て、横ばい状況である。
- ◆ 京阪電車及び路線バスの利用者数は、長期的に減少傾向にある。



(図表) 大津市の公共交通

(2) 大津市の観光資源（もの、人、自然、イベント）

①大津市の観光資源－1

大津市は自然、歴史、文化、レジャーなど、様々な観光要素が集積しており、そうした「見る」「感じる」「遊ぶ」観光資源とともに、石山温泉や雄琴温泉といった温泉地が点在するなど、大阪・近畿圏における宿泊地としても非常に高い観光ポテンシャルを持ち得る。

分類	観光資源(概要)	
神社仏閣	比叡山延暦寺	世界文化遺産
	石山寺	紫式部が源氏物語の構想を練った
	三井寺	近江八景「三井の晩鐘」で名高い
	浮御堂(満月寺)	湖上に突き出たお堂で有名
	岩間寺	汗かき観音の靈驗あらたか
	立木観音	厄除けで名高い
	日吉大社	全国3800の山王総本宮
	建部大社	近江一の宮
	近江神宮	大津に都を開いた天智天皇ゆかり
個性ある街	堅田	中世に栄えた自治都市の町並み
	坂本	延暦寺・日吉大社の門前町として栄えた
		穴太衆積みと里坊が残り、国の伝統的建造物群保存地区に指定。
	大津界限	東海道五十三次最大の宿場
		大津祭の日には江戸時代の町人町の風情が一層よみがえる
	膳所	本多氏六万石の城下町で、明治時代に解体された膳所城の城門が移築された神社に今も見られる。
	瀬田・石山	瀬田川の清流を軸に石山寺、瀬田の唐橋、建部大社などの見どころが集ま
自然・季節	三井寺の桜・日吉大社と門前町坂本の紅葉・石山寺に咲く四季折々の花・比叡山のボタン桜	
琵琶湖	大津港・遊覧船・なぎさ公園・柳が崎湖畔公園	
アウトドア	比叡山や湖南アルプスを舞台としたハイキングコース・葛川でのキャンプ・琵琶湖や清流での釣り・真野浜水泳場	
祭事・イベント	大津三大祭:大津祭・山王祭・船幸祭	
	ライトアップ:三井寺・琵琶湖疏水の桜(春)・日吉大社や旧竹林院など坂本の社寺と紅葉(秋)	
	びわ湖大津夏まつり 3000人の踊りの輪が広がる江州音頭総おどり	
	びわ湖大花火大会	
温泉	雄琴温泉	市内最大の規模で、伝教大師最澄が発見したと伝えられている琵琶湖の畔の温泉。京都・近江の奥座敷として古くから賑わってきた。
	石山温泉	石山寺、岩間寺、立木観音など、南部の観音巡礼の宿泊地として人気。
	南郷温泉	
	びわこ温泉	アクセスが便利で、琵琶湖の眺望も見事。
土産・名物	近江牛・鴨料理や寺院に伝わる精進料理・湖魚を使った湖漁料理／大津ならではの銘菓を作る和菓子屋／ゆばやそばなど比叡山の僧侶の食事として受け継がれた食品／大津絵・組紐などの伝統工芸品	

(図表) 大津市の主な観光資源 出典:「WHAT'S 大津?」大津市ホームページ



(図表) 大津市の主な観光資源

②大津市の観光資源－2

旅行会社が発行している旅行案内パンフレットにおいて、紹介されている観光資源等を以下に整理する。

【参考資料】

2007.12～2008.3 冬「びわ湖（彦根・長浜・大津・守山・瀬田・マキノ・延暦寺）」エース JTB

大津市の観光資源として、浮御堂、クルーズ船、噴水、地酒、石山寺が写真付きで紹介されている。



分類 観光資源(概要)		
エリア	施設名	備考
宿泊施設 大津	旅亭紅葉(※2)	源氏回廊
	琵琶湖ホテル(※1)	レイクビュー
	大津プリンスホテル(※1)	レイクビュー
	アヤハレークサイドホテル(※4)	展望大浴場
	おごと温泉 びわ湖花街道(※1)	京風懷石
	暖灯館さくのや	特産品料理
	びわこ緑水亭(※3)	レイクビュー
	湯元館(※1)	京風懷石
	琵琶湖グランドホテル(※3)	グループ旅行
	京近江	全室露天風呂完備
瀬田	里湯昔話雄山荘(※3)	松作りの大浴場
	ロイヤルオークホテル(※1)	プール等、レジャー施設
比叡山	眺望清逸の宿延暦寺会館(※4)	延暦寺境内
	※1) 掲載1ページ/※2) 掲載1/2ページ	
	※3) 掲載1/3ページ/※4) 掲載1/4ページ	
観光資源	三井寺	
	びわ湖バレイ	
	比叡山比叡山	
	「ミシガン60」「ミシガン90」	
	石山寺	

(図表右) 旅行案内パンフレット表紙、(図表左) 同パンフレット、大津市関連抜粋



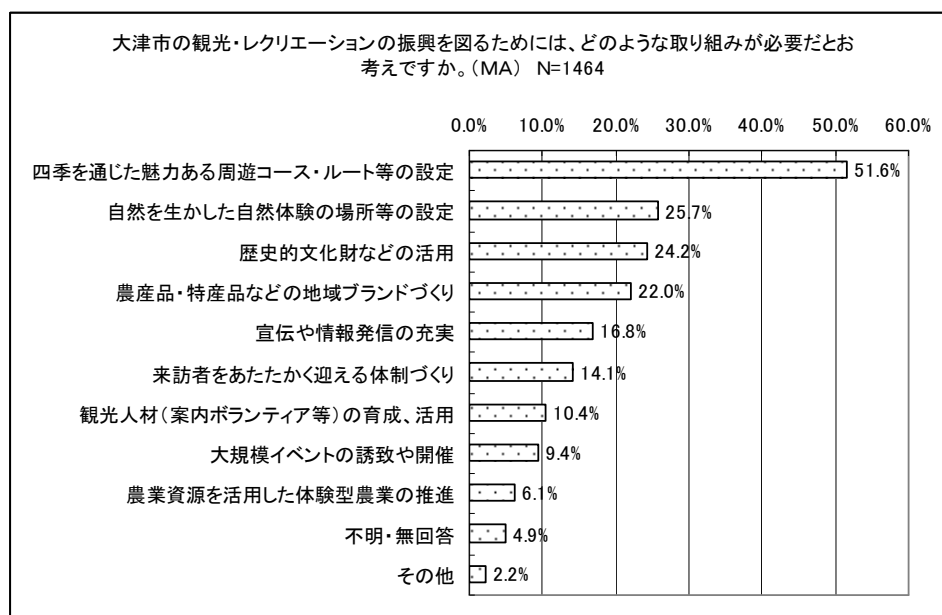
(図表) 同パンフレット、大津市関連抜粋

③大津市の観光資源－3

大津市総合計画策定に向けた市民意識調査の結果から、大津市の観光振興に対する市民意見を以下に整理する。

調査概要〈調査対象〉20歳以上の市民3,000人／〈調査期間〉平成18年5月23日から6月5日
 〈回収数〉1,464人／〈回収率〉48.8%

(問) 大津市の観光・レクリエーションの振興を図るためには、どのような取り組みが必要だとお考えですか (MA)。



(図表) 出典：「大津市総合計画策定に向けての市民意識調査（平成18年5月）」大津市

<結果概要>

「四季を通じた魅力ある周遊コース・ルート等の設定」が51.6%と半数を超えており、まちなぎわいづくりの設問においても高い回答率となっていた周遊コースやルート設定を求めている人が多くなっていることがわかる。

次いで、「自然を生かした自然体験の場所等の設定」が25.7%、「歴史的文化財などの活用」が24.2%、「農産品・特産品などの地域ブランドづくり」が22.0%と自然や歴史の活用、地域の特産づくりといった取組についても回答率が高くなっている。

年齢別では、「四季を通じた魅力ある周遊コース・ルート等の設定」や「歴史的文化財などの活用」について、ややばらつきはあるものの、60歳以上の年齢の高い層で回答率が高くなる傾向がみられる。一方、20～59歳の層では、「自然を生かした自然体験の場所等の設定」、「大規模イベントの誘致や開催」、「農産品・特産品などの地域ブランドづくり」について、回答率が高くなる傾向がみられる。

地域別では、志賀地域、北部地域で自然や農業の活用に関連する項目で、「自然を生かした自然体験の場所等の設定」、「自然を生かした自然体験の場所等の設定」、「農産品・特産品などの地域ブランドづくり」などについて回答率が高くなっている。一方、中部地域、南部地域では、「歴史的文化財などの活用」の回答率が高くなっている。

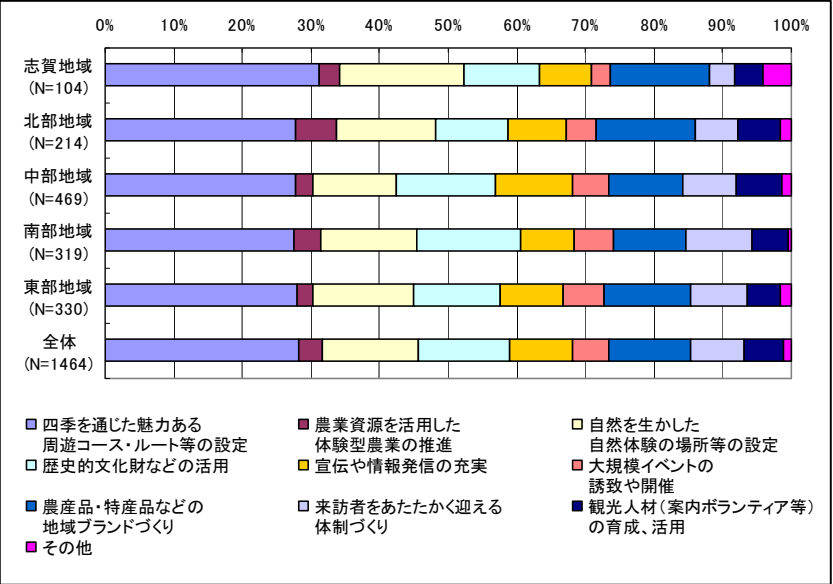
(図表) 観光振興に必要と思われる取り組み(地域別クロス集計)

出典：「大津市総合計画策定に向けての市民意識調査(平成18年5月)」大津市

※複数回答のため、表の割合とグラフの割合は異なる

どの地域においても、「四季を通じた魅力ある周遊コース・ルート等の設定」が高い結果となっている。

■地域別クロス集計		志賀地域 (N=104)	北部地域 (N=214)	中部地域 (N=469)	南部地域 (N=319)	東部地域 (N=330)	全体 (N=1464)
1	四季を通じた魅力ある周遊コース・ルート等の設定	60.0%	50.5%	50.3%	50.2%	52.1%	51.6%
2	農業資源を活用した体験型農業の推進	6.0%	10.7%	4.3%	7.2%	4.5%	6.1%
3	自然を生かした自然体験の場所等の設定	35.0%	26.2%	22.2%	25.7%	27.3%	25.7%
4	歴史的文化財などの活用	21.0%	19.2%	26.0%	27.9%	23.3%	24.2%
5	宣伝や情報発信の充実	15.0%	15.4%	20.3%	14.1%	17.3%	16.8%
6	大規模イベントの誘致や開催	5.0%	7.9%	9.4%	10.3%	10.9%	9.4%
7	農産品・特産品などの地域ブランドづくり	28.0%	26.2%	19.4%	19.4%	23.6%	22.0%
8	来訪者をあたたかく迎える体制づくり	7.0%	11.2%	14.3%	17.6%	15.5%	14.1%
9	観光人材(案内ボランティア等)の育成、活用	8.0%	11.2%	12.2%	9.7%	8.8%	10.4%
10	その他	8.0%	2.8%	2.3%	0.9%	3.0%	2.2%
	不明・無回答	5.0%	4.7%	5.5%	4.4%	3.6%	4.9%



(図表) 滋賀県エリア別モデルルート (大津)

出典：滋賀県ホームページ

滋賀県エリア別モデルルート
【比叡山と坂本の町並み】
西教寺→日吉大社→旧竹林院庭園→ケーブル坂本駅→延暦寺
【旧東海道を訪ねて】
関蟬丸神社下社→大津祭曳山展示館→義仲寺→膳所神社→膳所焼美術館→瀬田唐橋→建部大社
【旧北国海道を訪ねて】
園城寺→円満院→大津市歴史博物館→近江神宮→坂本の町並み→聖衆来迎寺→湖族の郷資料館→琵琶湖大橋
【芭蕉ゆかりの地を訪ねて】
本福寺→祥瑞寺→浮御堂→唐崎神社→義仲寺→幻住庵→石山寺→岩間寺
【ぶらり街並み博物館】
淡淡美術館→大津祭曳山展示館→三橋節子美術館→大津絵の店→大津市歴史博物館
【琵琶湖を体験】
大津港→唐崎神社→琵琶湖大橋→大津市各水泳場
【アミューズメントプラン】
大津湖岸なぎさ公園→浜大津アーカス→県立芸術劇場びわ湖ホール
【比良でハイキング】
びわ湖バレイ→打見山→蓬萊山→小女郎ヶ池

(3) 滋賀県の観光状況

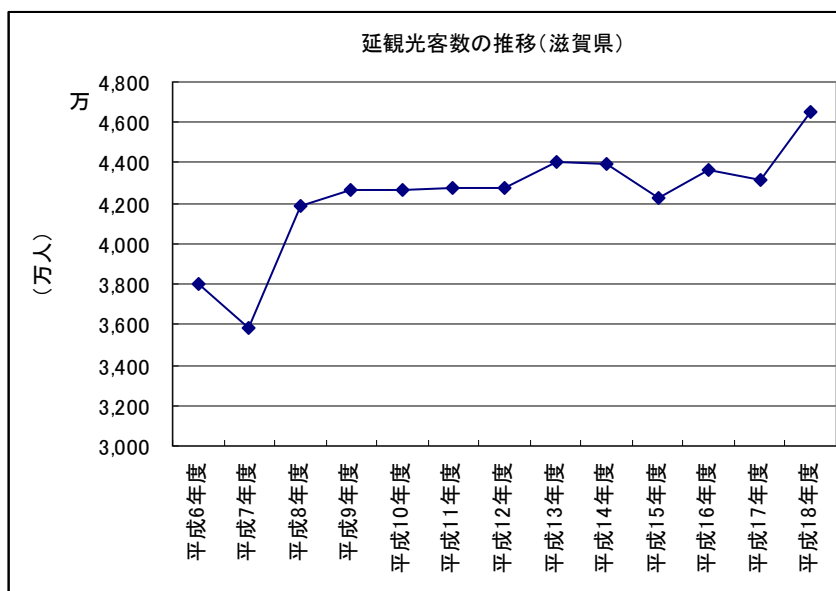
①概要

平成18年中に本県の観光地を訪れた観光入込客の延人数（以下「延観光旅客数」という。）は、4,650万2,600人で、前年に比べて338万3,600人増加した（7.8%増）。

そのうち、日帰り観光旅客者の延人数（以下「日帰り客数」という。）は、4,340万2,700人で、前年に比べて329万7,500人、8.2%の増加となった。これは、湖北地域で日帰り客数が大幅に増えたもので、NHK大河ドラマ「功名が辻」(*1)の放映の影響によるものと考えられる。

また、宿泊観光旅客者の延人数（以下「宿泊客数」という。）は、309万9,900人で、前年に比べて8万6,100人、2.9%の増加となった。外国人の延観光旅客者数は、14万9,728人で前年に比べて2万4,617人、14.1%の減少となった。前年は「愛・地球博」（2005年3月25日～9月25日）の開催による影響で観光旅客者数が大幅に増加したために、期間終了に伴い減少したものと推測されるが、平成16年の11万6,363人に比べると増加している。そのうち、外国人の宿泊客数は、8万3,235人で、前年に比べて1万7,486人、17.4%の減少となった。

出典：「平成18年 滋賀県観光入込客統計調査書」滋賀県



(図表) 延観光客数の推移

出典：平成6年～平成16年「全国観光動向」（社）日本観光協会

平成17,18年「滋賀県観光入込客統計調査書」滋賀県

*1) 功名が辻（こうみょうが辻）：2006年1月～12月に放送されたNHK大河ドラマで、原作は、司馬遼太郎。戦国時代の「夫婦愛」をテーマにした物語で近江（滋賀県）が舞台。

ドラマの放送を契機に、びわこデジタルズビューロー内の組織である滋賀ロケーションオフィスが中心となり、昨年11月に「滋賀県大河ドラマ誘致・推進協議会」を設立。



「滋賀県ゆかりの地」マップ

<大津市でのゆかりの地>

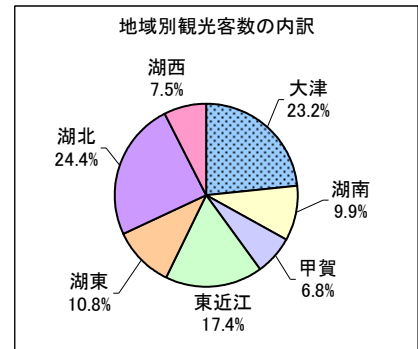
- 坂本城跡（大津市下坂本三丁目）
- 比叡山延暦寺（大津市坂本本町）



(図表) 出典:「滋賀県全体地図」(社) びわこビジターズビューローホームページ

②地域別観光旅客者

地域別観光旅客者の内訳は、「湖北」が24.4%と最も多く、次に、「大津」23.2%が続き、宿泊客については、「大津」が42.1%と最も多い。



地域別観光客数の内訳

地 域	延観光客数 (人)	比率	対前年比	前年延観光 客数(人)	宿泊客数 (人)	比率	対前年比	前年宿泊 客数(人)
大津	10,805,700	23.2%	101.0%	10,696,600	1,303,600	42.1%	104.4%	1,248,300
湖南	4,602,200	9.9%	106.5%	4,322,900	259,300	8.4%	96.7%	268,200
甲賀	3,152,400	6.8%	99.1%	3,182,500	97,500	3.1%	107.6%	90,600
東近江	8,070,300	17.4%	108.6%	7,432,300	272,600	8.8%	104.9%	259,900
湖東	5,031,300	10.8%	100.3%	5,017,600	235,500	7.6%	107.1%	219,900
湖北	11,347,200	24.4%	123.9%	9,160,200	596,800	19.3%	99.8%	597,800
湖西	3,493,500	7.5%	105.6%	3,306,900	334,600	10.8%	101.7%	329,100
合計	46,502,600	100.0%	107.8%	43,119,000	3,099,900	100.0%	102.9%	3,013,800

(図表) 地域別観光客数の内訳 出典:「平成18年 滋賀県観光入込客統計調査書」滋賀県



観光地入込客数ベスト30

順位	観 光 地 名	市町名	エリア	入込客数(人)
1	黒壁ガラス館	長浜市	湖北	2,433,900
2	多賀大社	多賀町	湖東	1,727,700
3	豊公園	長浜市	湖北	1,416,000
4	長浜オルゴール堂	長浜市	湖北	798,400
5	比叡山ドライブウェイ	大津市	大津・滋賀	736,200
6	滋賀県立希望が丘文化公園	野洲市、湖南市、竜王町	湖南・東近江	663,400
7	道の駅「竜王鏡の里」	竜王町	東近江	591,600
8	伊吹の里(道の駅)	米原市	湖北	567,100
9	日牟礼八幡宮	近江八幡市	東近江	553,800
10	八幡堀	近江八幡市	東近江	548,000
11	延暦寺	大津市	大津・滋賀	535,000
12	滋賀県立琵琶湖博物館	草津市	湖南	475,000
13	彦根城	彦根市	湖東	473,500
14	奥比叡ドライブウェイ	大津市	大津・滋賀	454,300
15	びわ湖鮎家の郷	野洲市	湖南	448,800
16	みずどりステーション(道の駅)	湖北町	湖北	436,400
17	琵琶湖ホテル	大津市	大津・滋賀	426,400
18	あいとうマーガレットステーション(道の駅)	東近江市	東近江	375,200
19	ウェルサンピア滋賀	近江八幡市	東近江	370,800
20	長浜城歴史博物館	長浜市	湖北	353,700
21	本山永源寺周辺	東近江市	東近江	350,200
22	近江舞子水泳場	大津市	大津・滋賀	349,700
23	マキノ高原	高島市	湖西	346,400
24	あがりゃんせ(スパリゾート雄琴)	大津市	大津・滋賀	330,700
25	太郎坊宮	東近江市	東近江	325,800
26	伊吹山ドライブウェイ	米原市	湖北	325,400
27	グリーンプラザからすま(道の駅)	草津市	湖南	323,400
28	グリーンパーク想いの森	高島市	湖西	309,700
29	滋賀県立近江富士花緑公園	野洲市	湖南	308,700
30	滋賀県立陶芸の森(産業展示館)	甲賀市	甲賀	304,700

(図表)

観光地入込客数ベスト30

出典:平成18年 滋賀県観光入
込客統計調査書」滋賀県

(4) 近畿における宿泊状況

(「近畿版・初の『宿泊旅行統計調査』(平成19年1月～6月)国土交通省 近畿運輸局」より)

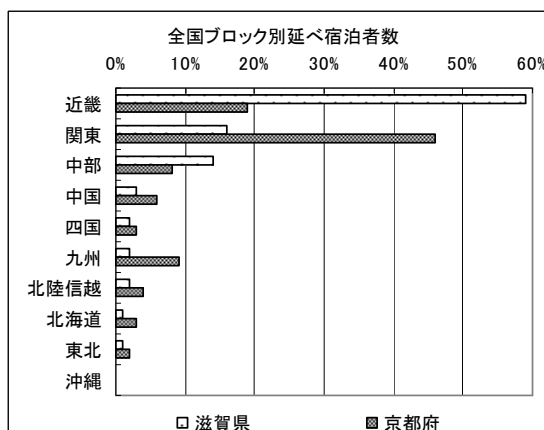
<近畿における宿泊状況(延べ宿泊者数)>

近畿における延べ宿泊者数は、1,959 万人泊(全国の13.6%)で、うち外国人は189 万人泊(全国の18.2%)。近畿における延べ宿泊者数全体に占める外国人延べ宿泊者数の割合は9.6%(全国:外国人延べ宿泊者数の占める割合7.2%)となっている。延べ宿泊者数は、大阪府、京都府、兵庫県の上位3府県で、近畿全体の80%以上を占めている(調査結果資料抜粋)。

<滋賀県における宿泊状況>

府県別国内居住地別延べ宿泊者数の状況を見ると滋賀県は、近畿地区からの延べ宿泊者数が59%と最も多く、対して京都府は、関東からの延べ宿泊数が46%と多くなっている。

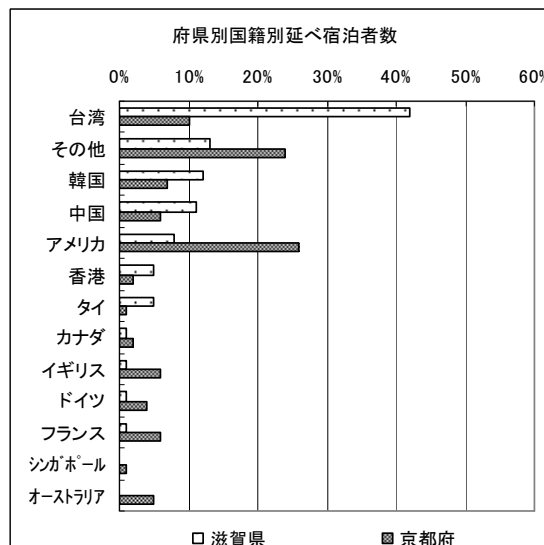
	滋賀県	京都府
近畿	59%	19%
関東	16%	46%
中部	14%	8%
中国	3%	6%
四国	2%	3%
九州	2%	9%
北陸信越	2%	4%
北海道	1%	3%
東北	1%	2%
沖縄	0%	0%



(図表) 全国ブロック別延べ宿泊者数 出典:「宿泊旅行統計調査(平成19年)」国土交通省近畿運輸局

府県別国籍別延べ宿泊者数の状況を見ると滋賀県は、台湾からの延べ宿泊者数が42%と最も多く、対して京都府はアメリカが26%と最も多くなっている。

	滋賀県	京都府
台湾	42%	10%
その他	13%	24%
韓国	12%	7%
中国	11%	6%
アメリカ	8%	26%
香港	5%	2%
タイ	5%	1%
カナダ	1%	2%
イギリス	1%	6%
ドイツ	1%	4%
フランス	1%	6%
シンガポール	0%	1%
オーストラリア	0%	5%



(図表) 府県別国内居住地別延べ宿泊者数 出典:「宿泊旅行統計調査(平成19年)」国土交通省近畿運輸局

（５）大津市の観光状況

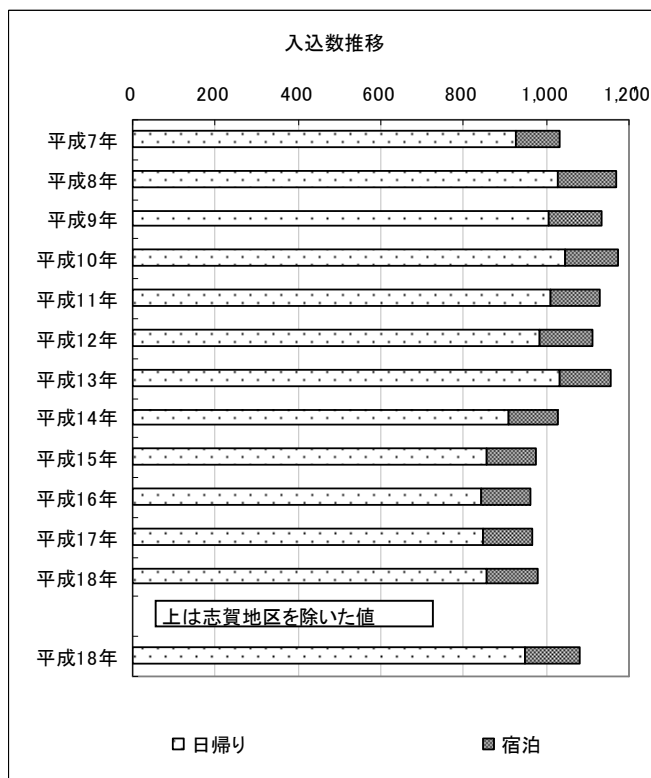
①市全域の観光入込数の動向

平成７年から１８年における大津市の観光入込数を見ると、日帰り及び宿泊数の合計では平成１３年から減少し、平成１８年までほぼ横ばいとなっている（志賀地区の入込数を除く）。

（単位：人）

	日帰り	宿泊	合計
平成7年	9,243,084	1,093,382	10,336,466
平成8年	10,262,787	1,413,272	11,676,059
平成9年	10,063,828	1,294,869	11,358,697
平成10年	10,442,400	1,295,600	11,738,000
平成11年	10,100,300	1,200,900	11,301,200
平成12年	9,851,500	1,254,500	11,106,000
平成13年	10,334,400	1,218,200	11,552,600
平成14年	9,103,200	1,194,600	10,297,800
平成15年	8,580,100	1,163,000	9,743,100
平成16年	8,429,100	1,176,800	9,605,900
平成17年	8,471,400	1,184,100	9,655,500
平成18年	8,538,870	1,238,070	9,776,940
上は志賀地区を除いた値			
平成18年	9,502,070	1,303,570	10,805,640

資料：大津市地区別入込客数一覧表
（大津市観光振興課）



（単位：人・％）

	日帰り	宿泊	合計
平成17年	8,471,400	1,184,100	9,655,500
平成18年 (志賀地区を除く)	8,538,870	1,238,070	9,776,940
前年比	101%	105%	101%

（図表上）大津市の入込数推移（平成７年～平成１８年）

（図表左）大津市の入込数平成１７年、１８年比較

出典ともに大津市観光振興課資料

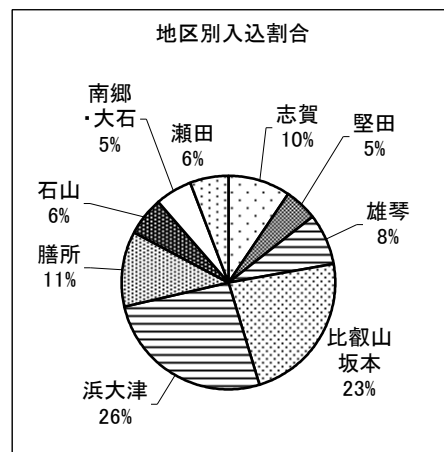
滋賀県全体では NHK 大河ドラマの影響もあり、平成１８年度の入込数が７．８％増加していたが、大津市では１％の増加のみとなっている。

②地区別の観光動向

大津市地区別入込数（資料：大津市観光振興課）から、地区別の観光動向を以下に整理する。

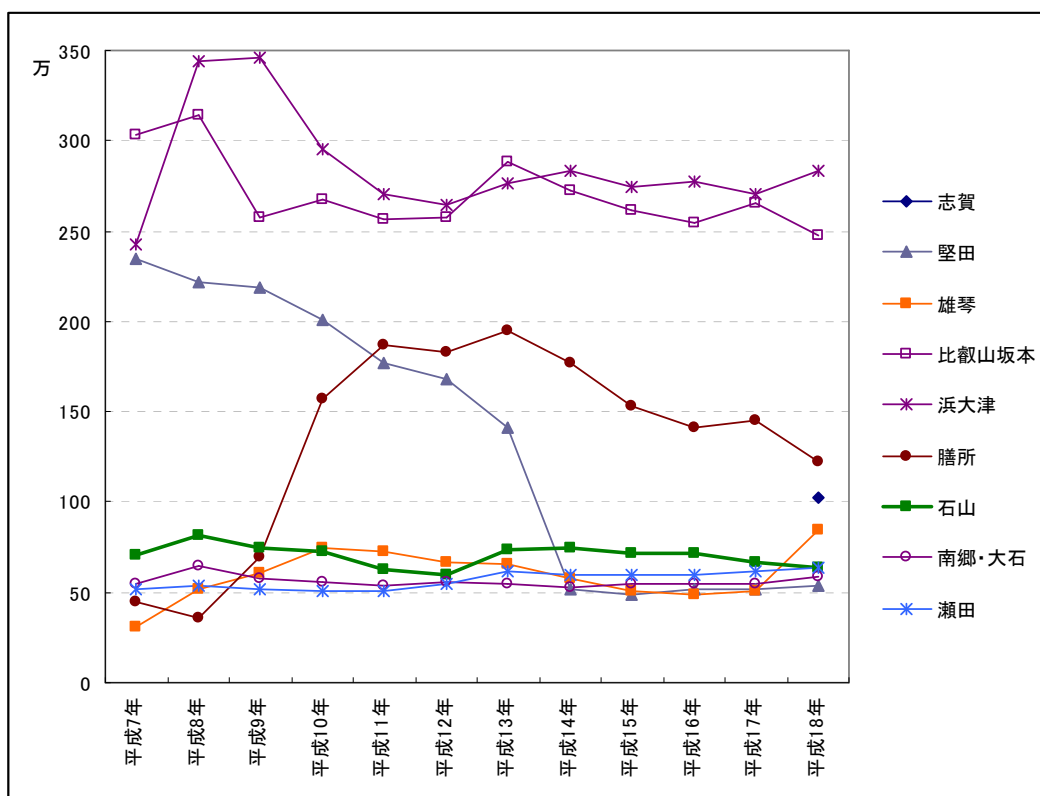
＜地区別入込数割合＞

平成18年の地区別入込割合を見ると、浜大津が最も多く（26%）、比叡山坂本（23%）、膳所（11%）の順となっている。



（図表）大津市地区別入込割合（平成18年）

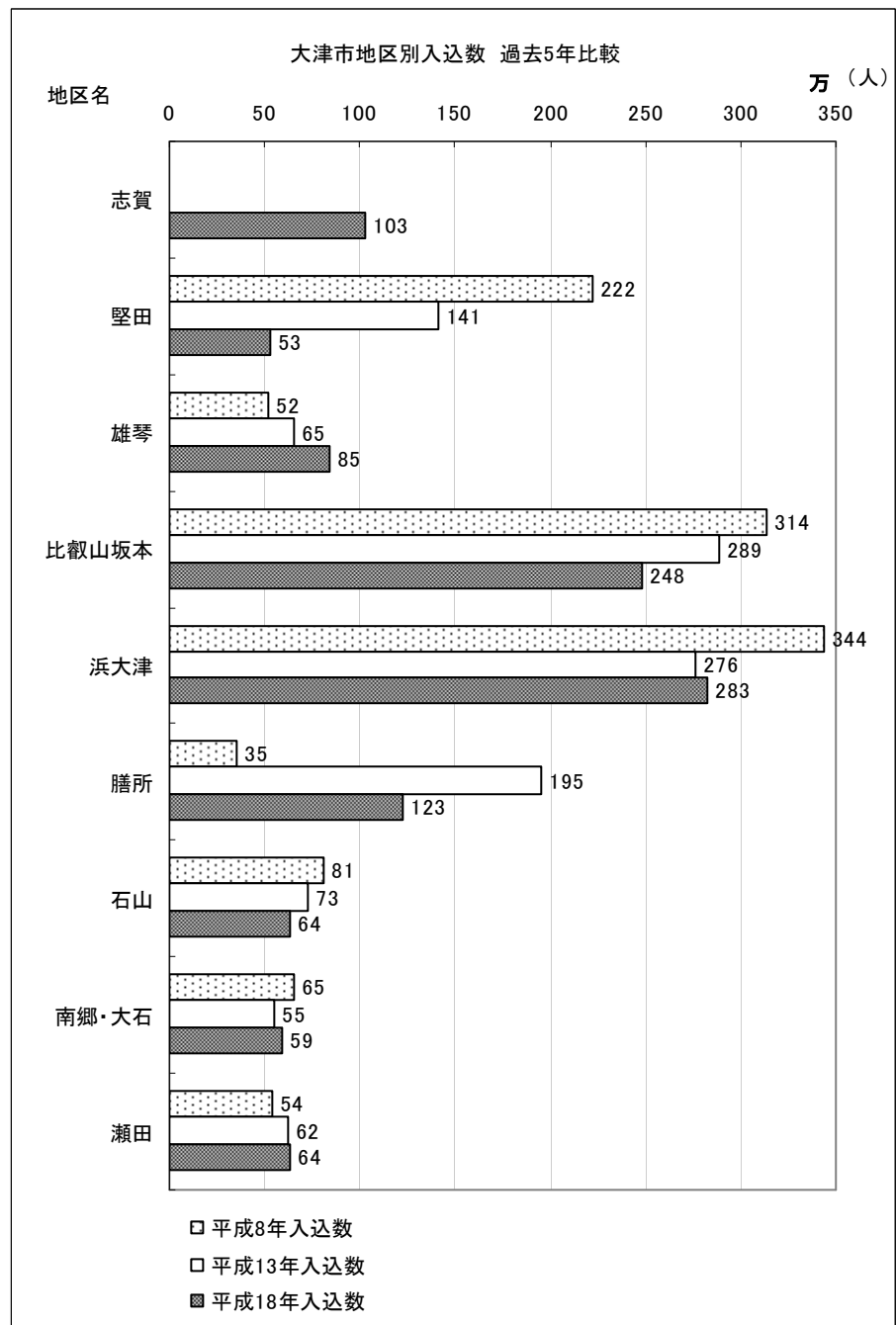
出典：「大津市地区別入込数」大津市観光振興課



（図表）大津市地区別入込数平成7年～平成18年推移（※志賀地区は平成18年より）

出典：「大津市地区別入込数」大津市観光振興課

大津市で最も入込数が多い浜大津地区は、平成18年に前年と比べやや増加しているものの、平成9年（300万人）以降から減少傾向にある。全地区において、入込数が増加しているのは雄琴地区のみとなっている。



（図表）大津市地区別入込数過去5年比較 出典：「大津市地区別入込数」大津市観光振興課

大津市地区別入込数一覧表		(単位:人)											
		平成7年	平成8年	平成9年	平成10年	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
志賀	日帰り												963,200
	宿泊												65,500
	合計												1,028,700
堅田	日帰り	2,287,087	2,158,329	2,124,286	1,947,900	1,732,200	1,647,200	1,379,600	490,100	456,700	490,100	487,900	516,540
	宿泊	59,244	63,730	60,674	63,300	35,600	28,400	27,800	27,600	25,600	26,100	31,900	16,300
	合計	2,346,331	2,222,059	2,184,960	2,011,200	1,767,800	1,675,600	1,407,400	517,700	482,300	516,200	519,800	532,840
雄琴	日帰り	40,946	63,789	155,505	287,800	309,400	231,000	219,700	155,500	84,000	93,800	111,300	414,160
	宿泊	269,914	456,548	446,244	455,200	418,300	437,600	432,700	423,900	419,900	397,900	395,600	431,400
	合計	310,860	520,337	601,749	743,000	727,700	668,600	652,400	579,400	503,900	491,700	506,900	845,560
比叡山坂本	日帰り	2,961,674	3,046,387	2,530,071	2,645,600	2,521,100	2,534,000	2,843,900	2,682,900	2,565,300	2,520,400	2,619,700	2,400,570
	宿泊	71,175	93,549	42,408	31,000	42,200	42,000	41,600	40,700	45,600	24,500	35,800	78,800
	合計	3,032,849	3,139,936	2,572,479	2,676,600	2,563,300	2,576,000	2,885,500	2,723,600	2,610,900	2,544,900	2,655,500	2,479,370
浜大津	日帰り	2,120,630	3,040,076	3,069,192	2,554,200	2,358,000	2,299,000	2,450,000	2,526,500	2,461,300	2,463,700	2,430,300	2,518,600
	宿泊	303,954	396,731	386,387	400,900	346,200	346,300	312,400	308,700	285,500	314,900	277,800	310,860
	合計	2,424,584	3,436,807	3,455,579	2,955,100	2,704,200	2,645,300	2,762,400	2,835,200	2,746,800	2,778,600	2,708,100	2,829,460
膳所	日帰り	211,038	111,587	497,519	1,369,500	1,648,300	1,585,500	1,709,000	1,528,200	1,306,900	1,165,100	1,178,700	963,700
	宿泊	234,067	242,437	202,995	196,800	216,600	245,400	238,500	239,000	227,300	242,900	268,400	261,700
	合計	445,105	354,024	700,514	1,566,300	1,864,900	1,830,900	1,947,500	1,767,200	1,534,200	1,408,000	1,447,100	1,225,400
石山	日帰り	665,476	767,904	706,117	690,500	602,100	571,500	704,600	724,200	689,000	696,600	635,400	613,000
	宿泊	41,263	42,900	42,326	37,400	26,800	27,900	26,300	23,900	24,200	23,600	25,900	25,710
	合計	706,739	810,804	748,443	727,900	628,900	599,400	730,900	748,100	713,200	720,200	661,300	638,710
南郷・大石	日帰り	544,946	642,619	567,638	548,700	533,200	554,800	540,000	520,000	544,500	545,800	538,500	584,500
	宿泊	6,853	8,387	7,676	6,900	6,300	5,700	6,200	6,200	6,200	5,600	4,600	6,100
	合計	551,799	651,006	575,314	555,600	539,500	560,500	546,200	526,200	550,700	551,400	543,100	590,600
瀬田	日帰り	411,287	432,096	413,500	398,200	396,000	428,500	487,600	475,800	472,400	453,600	469,600	527,800
	宿泊	106,912	108,990	106,159	104,100	108,900	121,200	132,700	124,600	128,700	141,300	144,100	107,200
	合計	518,199	541,086	519,659	502,300	504,900	549,700	620,300	600,400	601,100	594,900	613,700	635,000
合計	日帰り	9,243,084	10,262,787	10,063,828	10,442,400	10,100,300	9,851,500	10,334,400	9,103,200	8,580,100	8,429,100	8,471,400	9,502,070
	宿泊	1,093,382	1,413,272	1,294,869	1,295,600	1,200,900	1,254,500	1,218,200	1,194,600	1,163,000	1,176,800	1,184,100	1,303,570
	合計	10,336,466	11,676,059	11,358,697	11,738,000	11,301,200	11,106,000	11,552,600	10,297,800	9,743,100	9,605,900	9,655,500	10,805,640

(図表) 大津市地区別入込数一覧表 出典:「大津市地区別入込数」大津市観光振興課

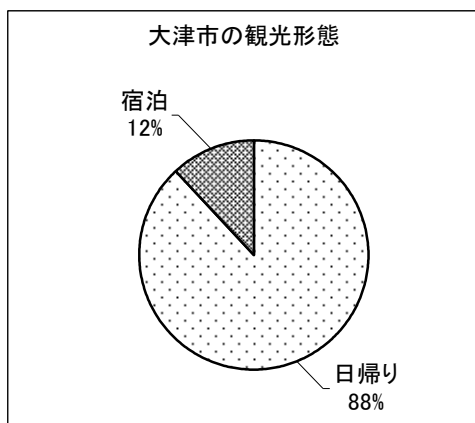
③平成18年における観光入込客数と観光形態

滋賀県「平成18年 滋賀県観光入込客統計調査書」から大津市の観光状況を以下に整理する。

<月別の入込数>

大津市の日帰り及び宿泊者合計の入込客数を月別に見ると8月が最も多く、100万人を超える入込客数は以下11月、1月、10月の順となっている。

観光旅客者の9割弱が日帰り客で、宿泊客の割合は少なくなっている。

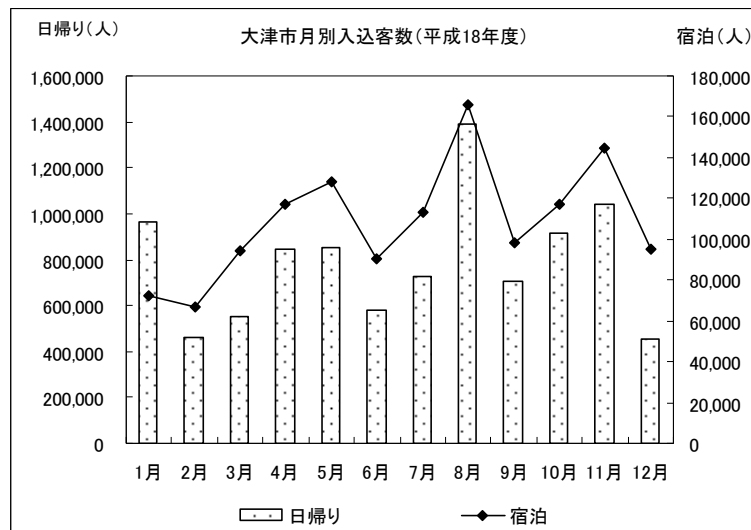


(図表) 大津市の観光形態

出典：平成18年 滋賀県観光入込客統計調査書 滋賀県

(単位:人)

	日帰り	宿泊	入込客数計
1月	966,100	72,400	1,038,500
2月	460,000	67,000	527,000
3月	551,800	94,000	645,800
4月	846,700	117,300	964,000
5月	853,300	128,000	981,300
6月	581,800	90,100	671,900
7月	726,500	113,100	839,600
8月	1,393,700	165,700	1,559,400
9月	708,100	98,600	806,700
10月	917,500	117,100	1,034,600
11月	1,040,400	144,800	1,185,200
12月	456,200	95,500	551,700
延観光客数	9,502,100	1,303,600	10,805,700
前年計	9,448,300	1,248,300	10,696,600
前年比(%)	100.6%	104.4%	101.0%



(図表) 大津市月別入込客数

出典：「平成18年 滋賀県観光入込客統計調査書」 滋賀県

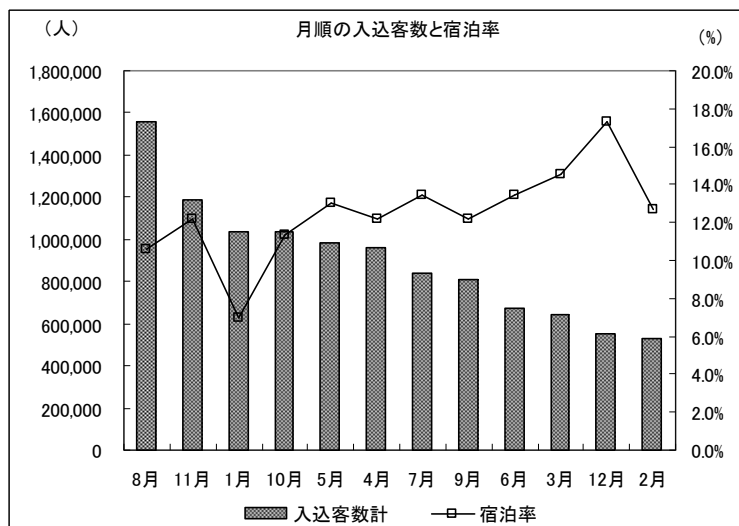
＜宿泊数＞

月別の宿泊率を算出すると、宿泊率は入込客数とは連動しておらず、17.3%と12月が最も多く、次に3月(14.6%)、7月(13.5%)となっている。

順位/月	日帰り	宿泊	入込客数計	宿泊率
1 8月	1,393,700	165,700	1,559,400	10.6%
2 11月	1,040,400	144,800	1,185,200	12.2%
3 1月	966,100	72,400	1,038,500	7.0%
4 10月	917,500	117,100	1,034,600	11.3%
5 5月	853,300	128,000	981,300	13.0%
6 4月	846,700	117,300	964,000	12.2%
7 7月	726,500	113,100	839,600	13.5%
8 9月	708,100	98,600	806,700	12.2%
9 6月	581,800	90,100	671,900	13.4%
10 3月	551,800	94,000	645,800	14.6%
11 12月	456,200	95,500	551,700	17.3%
12 2月	460,000	67,000	527,000	12.7%
延観光客数	9,502,100	1,303,600	10,805,700	12.1%
前年計	9,448,300	1,248,300	10,696,600	11.7%
前年比(%)	100.6%	104.4%	101.0%	

(図表) 月別の入込客数と宿泊率

出典:「平成18年滋賀県観光入込客統計調査書」滋賀県



＜外国人観光旅客者の宿泊状況＞

外国人観光旅客者は、4月が最も多く、次に11月、10月の順となっている。

外国人観光客		(単位:人)		(単位:%)
順位/月	日帰り	宿泊	計	宿泊率
1 4月	940	10,044	10,984	91.4%
2 11月	650	6,081	6,731	90.3%
3 10月	437	5,728	6,165	92.9%
4 5月	648	4,735	5,383	88.0%
5 12月	181	5,031	5,212	96.5%
6 9月	328	4,771	5,099	93.6%
7 7月	186	4,464	4,650	96.0%
8 6月	611	3,870	4,481	86.4%
9 3月	557	3,745	4,302	87.1%
10 8月	293	3,211	3,504	91.6%
11 1月	207	2,489	2,696	92.3%
12 2月	368	2,195	2,563	85.6%

(図表) 外国人観光客の月別入込客数と宿泊率

出典:「平成18年滋賀県観光入込客統計調査書」滋賀県

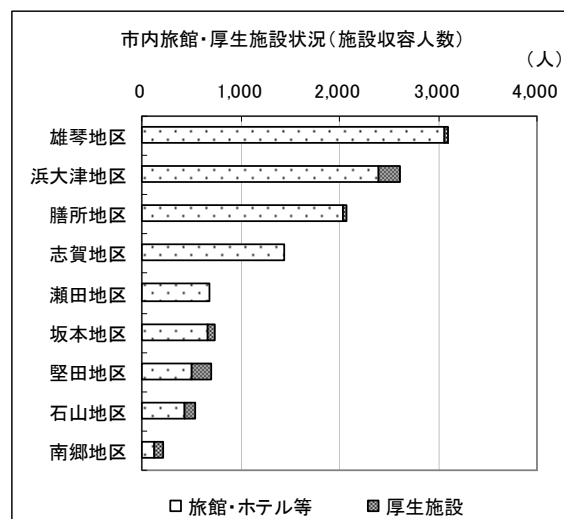
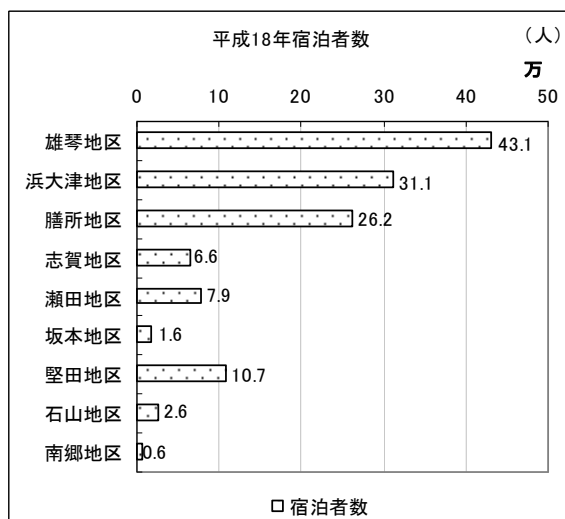
＜宿泊状況＞

市内の宿泊施設は、宿泊者数と施設数がほぼ比例した状況にあり、それぞれ雄琴温泉のある雄琴地区とびわ湖温泉のある浜大津地区、そして膳所地区の順となっている。

その他、温泉のある地区である。石山地区と南郷地区の宿泊施設はともに厚生施設は多いが、旅館・ホテルが少ない状況にあり、他の温泉を有する地区と比べ低い宿泊者数となっている。

区分	平成18年 宿泊者数	総数		旅館・ホテル等		厚生施設	
		施設数	収容人数	施設数	収容人数	施設数	収容人数
総数	1,303,570	91	12,126	83	11,346	8	780
雄琴地区	431,400	11	3,101	10	3,065	1	36
浜大津地区	310,860	15	2,610	13	2,398	2	212
膳所地区	261,700	4	2,079	3	2,037	1	42
志賀地区	65,500	29	1,450	29	1,450	0	0
坂本地区	78,800	5	743	4	658	1	85
堅田地区	16,300	11	703	10	503	1	200
瀬田地区	107,200	4	678	4	678	0	0
石山地区	25,710	8	542	7	432	1	110
南郷地区	6,100	4	220	3	125	1	95

資料：産業観光部観光振興課



(図表左) 平成18年宿泊者数 出典：大津市観光振興課資料

(図表右) 市内旅館・厚生施設状況 出典：「平成18年版 大津市統計年鑑」大津市



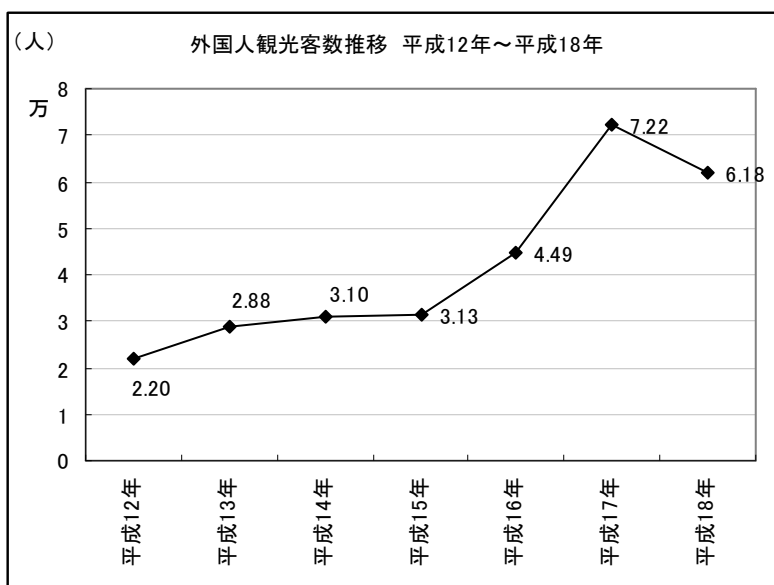
(写真左) びわ湖温泉 (写真右) 雄琴温泉

＜外国人観光旅客者入込数推移＞

大津市の外国人観光旅客者数の推移を見ると、観光旅客者全体では平成18年まで増加しているが、平成17年の7.2万人をピークに平成18年は減少している。

(単位:人)

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
観光客数	12,891,100	13,198,800	11,849,500	11,256,700	11,042,600	10,696,600	10,805,700
うち外国人数	22,021	28,844	31,001	31,266	44,902	72,150	61,770
外国人の割合(%)	0.2%	0.2%	0.3%	0.3%	0.4%	0.7%	0.6%



(図表) 外国人観光客推移 出典:「平成18年滋賀県観光入込客統計調査書」滋賀県

④目的別入込客数

目的別の入込客数を見ると、４７．２％と一般行楽が最も多く、次に寺社・文化２６．１％、行催事１３．６％の順となっている。

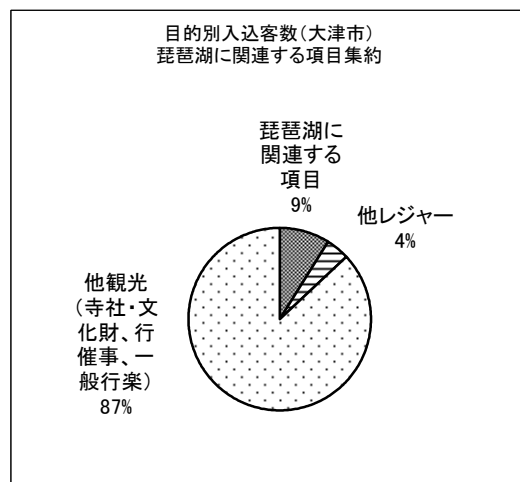
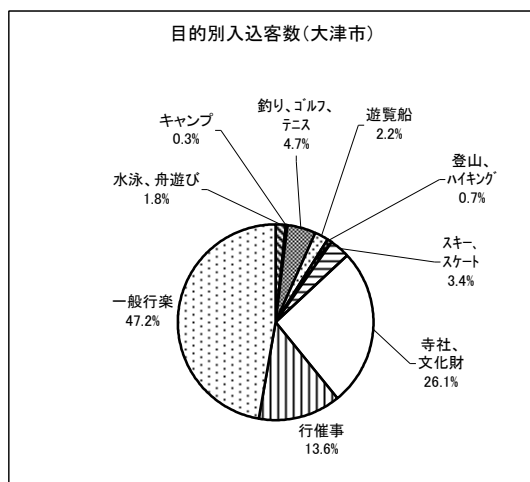
「キャンプ」、「水泳、舟遊び」、「釣り、ゴルフ、テニス」、「遊覧船」など、琵琶湖に関係する目的の割合を合計すると、９．０％と１割に満たない数値となっている。

目的別入込客数

(単位：人)

市町名		計	琵琶湖に関連する項目				他レジャー		他観光		
			水泳、舟遊び	キャンプ	釣り、ゴルフ、テニス	遊覧船	登山、ハイキング	スキー、スケート	寺社、文化財	行催事	一般行楽
大津市	観光客数	10,805,700	191,000	32,300	507,400	239,400	71,100	367,100	2,825,500	1,474,800	5,097,100
	うち外国人数	61,770	20	36	644	2,260	70	0	3,592	758	54,390
滋賀県合計	観光客数	46,502,600	672,900	384,400	2,510,600	661,200	769,200	927,200	9,341,600	4,829,700	26,405,800
	うち外国人数	149,728	755	790	722	2,413	475	150	26,827	9,653	107,943
前年合計	観光客数	43,119,000	684,600	360,800	2,391,800	702,300	508,200	963,500	8,972,900	4,770,600	23,764,300
	うち外国人数	174,345	1,356	1,200	311	1,506	358	2,205	34,633	9,039	123,737
対前年比	観光客数	107.8%	98.3%	106.5%	105.0%	94.1%	151.4%	96.2%	104.1%	101.2%	111.1%
	うち外国人数	85.9%	55.7%	65.8%	232.2%	160.2%	132.7%	6.8%	77.5%	106.8%	87.2%

大津市	琵琶湖に関連する項目	他レジャー	他観光 (寺社・文化財、行催事、一般行楽)
合計	970,100	438,200	9,397,400
割合	9%	4%	87%



(図表) 目的別入込客数 出典：「平成 18 年滋賀県観光旅客者入込客統計調査」滋賀県

⑤他都市との比較

近隣の自治体に取りまとめている観光調査資料から大津市の観光状況を以下に整理する（入込客数の調査方法は異なるため、以下データは参考とする）。

都市規模が異なるため、比較を行うパラメーターとして人口を用いる。

その割合を見ると、大津市は、観光都市として古くから都市づくりが行われている神戸市や京都市には劣るものの、大阪市や奈良市と比較し高い割合となっている。

		(単位:人)	(単位:%)
	①入込客数	②人口(*6)	割合②/①
大津市	10,805,700 (*1)	301,672	2.8%
京都市	48,391,000 (*2)	1,474,811	3.0%
大阪市	104,050,000 (*3)	2,628,811	2.5%
神戸市	30,653,000 (*4)	1,525,393	5.0%
奈良市	13,468,000 (*5)	370,102	2.7%

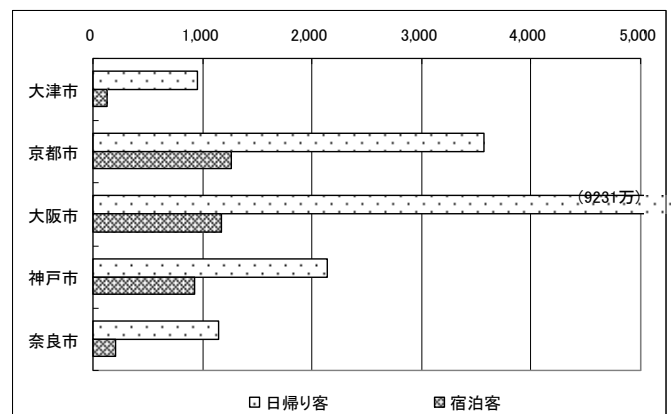
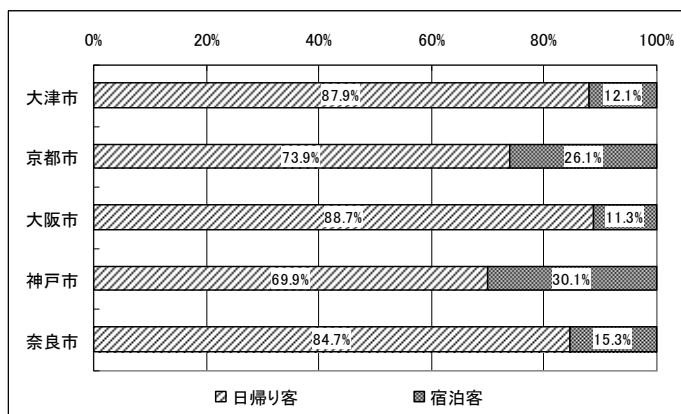
(*1)資料 滋賀県「平成18年 滋賀県観光入込客統計調査書」
 (*2)資料 京都市「京都市観光調査年報 平成18年(2006年)」
 (*3)資料 大阪市「平成18年度 大阪市の観光動向調査」
 (*4)資料 兵庫県「平成18年度観光客動態調査結果(速報)」
 (*5)資料 奈良市「奈良市入込観光客数調査報告」
 (*6)資料 総務省「平成17年国勢調査」

(図表) 近隣都市の入込客数と都市規模から見た割合

ただ、宿泊率は、近接する京都市と比べ、10%以上の開きがある。市内観光旅客者の9割弱が日帰りという観光形態を含め、宿泊率を高めることは、大津市における観光施策の課題である。

	(単位:人) (単位:%)			
	日帰り客	宿泊客	入込客数	宿泊率
大津市	9,502,100	1,303,600	10,805,700	12.1% (*1)
京都市	35,737,000	12,654,000	48,391,000	26.1% (*2)
大阪市	92,310,000	11,740,000	104,050,000	11.3% (*3)
神戸市	21,426,000	9,227,000	30,653,000	30.1% (*4)
奈良市	11,405,000	2,063,000	13,468,000	15.3% (*5)

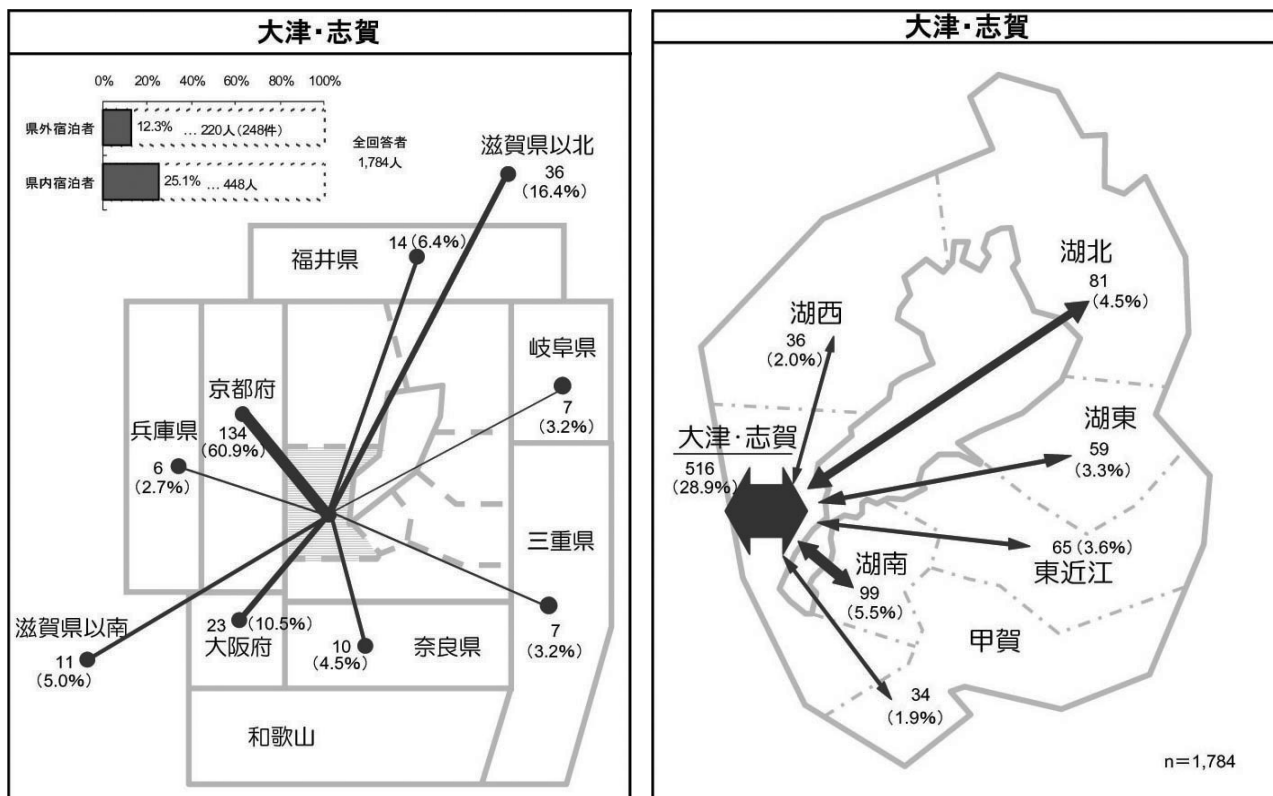
(*1)資料 滋賀県「平成18年 滋賀県観光入込客統計調査書」
 (*2)資料 京都市「京都市観光調査年報 平成18年(2006年)」
 (*3)資料 大阪市「平成18年度 大阪市の観光動向調査」
 (*4)資料 兵庫県「平成18年度観光客動態調査結果(速報)」
 (*5)資料 奈良市「奈良市入込観光客数調査報告」



(図表) 近隣都市の入込客数と宿泊率

⑥観光流動

滋賀県「平成 17 年滋賀県観光動態調査報告書」から大津市の観光流動（人の流れ）を以下に整理する。



（図表左）県外・県内宿泊者の状況と、県外宿泊者の府県別人数

（図表右）調査地点以外の訪問地の含まれる地域

出典：「平成 17 年滋賀県観光動態調査報告書」滋賀県

< 県外宿泊者（図表左参照） >

大津市（大津・志賀）は、滋賀県以外で宿泊したという回答が多く、滋賀県以外での宿泊地は、隣接する京都府（60.9%）が多い。

< 他の訪問地（図表右参照） >

大津市（大津・志賀）における他の観光地への移動を見ると、地域内で複数の移動をする行動は多く見られるが、県内他地域との流動性は高くはない。

⑦大津市における ATA(エリア・ツーリズム・エージェンシー)

大津市における ATA (エリア・ツーリズム・エージェンシー) を以下に整理する。

<外客に対応している ATA>

名称	主な活動内容
(社)びわこビズターズビューロー	<p>滋賀県における観光情報の中心機関で、情報のリリースは文化と観光など多岐にわたる。</p> <p>以下の6部会で組織され充実した運営がなされている。</p> <p>①国内旅行部会、②インバウンド部会、③教育旅行部会、④物産振興部会、⑤コンベンション部会、⑥ロケーション部会</p> <p>また同組織には、①滋賀県観光物産情報センター、②、滋賀県東京観光物産情報センター、③滋賀県名古屋観光物産情報センターの3センターがある。</p>

<その他の ATA>

名称	主な活動内容
(社)びわ湖大津観光協会	<p>平成16年に策定した観光行動方針に基づき、平成17年度より大津市が行ってきた観光宣伝、観光イベントなどソフト事業を本協会において一元的に実施。</p> <p>専門部会として、①総務部会、②企画宣伝部会、③おもてなし部会がある。また、大津市案内所として①JR大津駅前、②石山駅前、③堅田駅前の3箇所に同協会が管理運営する案内所がある。</p>
観光協会	<p>地域観光の推進を行う組織として大津市には、①志賀観光協会、②堅田観光協会、③坂本観光協会、④おごと温泉観光協会(JR 雄琴駅内に「おごと温泉駅観光案内所」あり)、⑤(社)石山観光協会、⑥瀬田川流域観光協会</p>
大津商工会議所	<p>市内における商工業振興の一環として、本年は源氏物語 in 古都大津事業に取り組んでいる。</p>
その他の商工会議所	<p>商工業の経営支援や地域の活性化を図るための様々な活動を行っている商工会議所は、上記以外に①志賀商工会議所、②堅田商工会議所、③瀬田商工会議所がある。</p>
温泉組合	<p>大津市内には、①おごと温泉旅行協同組合、②石山・南郷温泉組合の組合がある。</p>
NPO 法人 浜大津観光協会	<p>浜大津を中心とする観光施設等に対して、施設の充実を図り、観光旅客者の誘致に関する事業を行い、観光事業の発展と観光を通じて、大津市のまちづくり振興と水辺環境の保全に寄与することを目的としている(滋賀県県民活動課 NPO 活動推進担当ホームページより)。</p>
びわ湖大津観光ボランティアガイド協会	<p>大津の歴史文化や自然風土、物産などの地場産業を、会員自らのボランティア精神をもって案内と説明を行い、「びわ湖大津」についての理解と愛着を深めて頂いている。</p>

I-2. 関連計画の整理

(1) 大津市総合計画

「人を結び、時を結び、自然と結ばれる結（ゆい）の湖都（こと）大津」を都市像の実現を目指し、市民、事業者、行政の「三者協働」によるまちづくりに取り組む。

基本構想の期間は、平成 19 年度から平成 28 年度までの 10 年間で、2007 年（平成 19 年）4 月に策定。

(2) 大津市総合計画 第 1 期実行計画 結（ゆい）プラン

基本構想に定めた将来都市像「人を結び、時を結び、自然と結ばれる 結の湖都 大津」を実現するため、平成 19 年度から平成 28 年度を計画期間とする総合計画の前期 3 年間に、本市が重点的・優先的に推進していく事業がまとめられる。

リーディングプロジェクトと重点事業で構成され、観光施策としては基本方針 2【次代を担う「まちのにぎわい」を創る】において、観光旅客が行き交うまちづくりが基本政策として掲げられている。

重点化の視点

本市は、豊富な観光資源を有するものの、それぞれが市域に点在することなどから、その魅力を十分に生かしていくことが求められています。
このため、既存の観光資源に磨きをかけるとともに、新たな観光資源の整備を推進し、資源のネットワーク化を図ります。
また、観光客の立場に立った観光情報の充実に努め、観光地としての魅力を広く発信します。

- 1 観光資源の整備とネットワーク化の推進
- 2 観光情報の発信

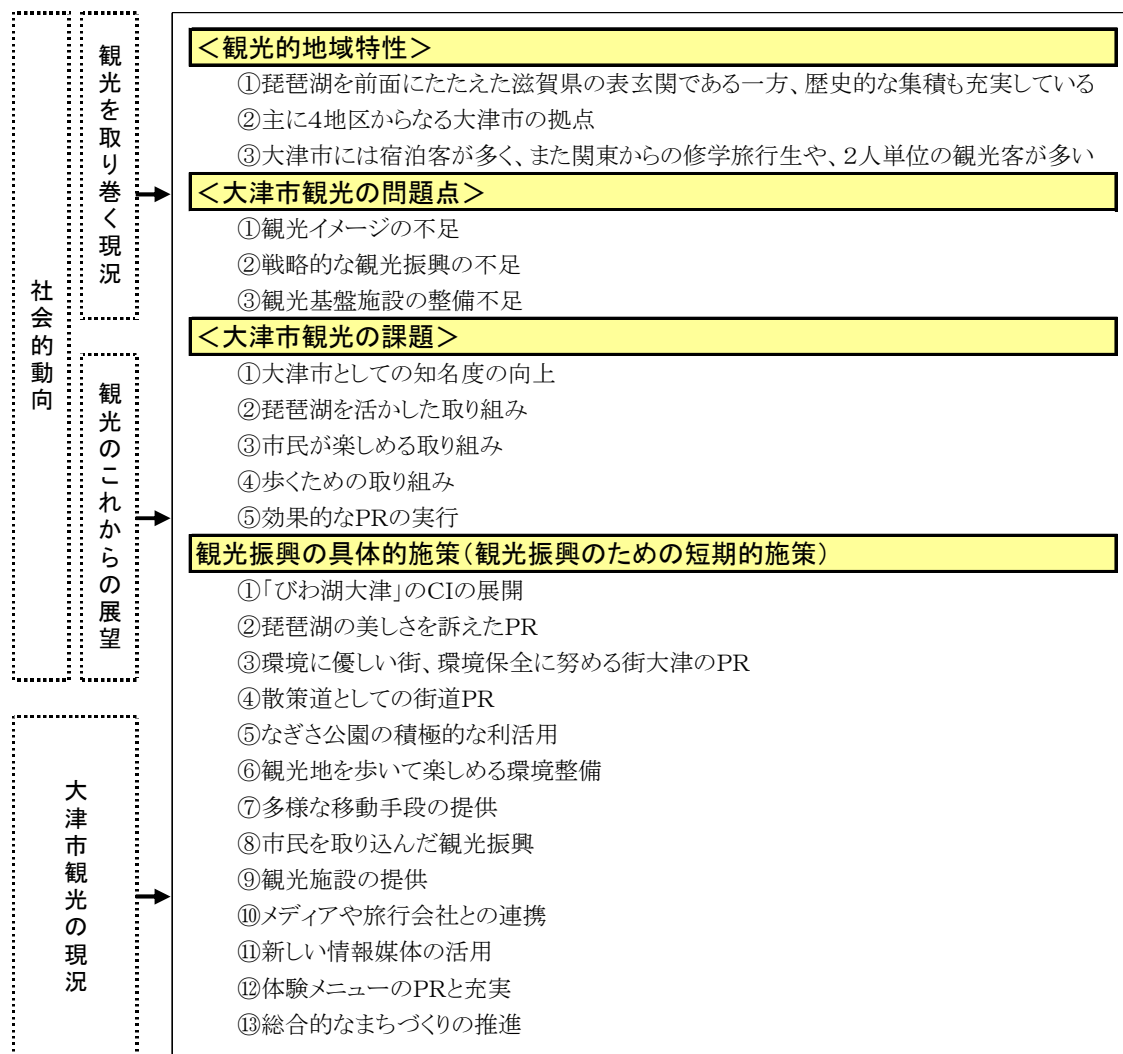
(図表) 観光旅客が行き交うまちづくり 重点化の視点 出典：同計画より

1. 観光資源の整備とネットワーク化の推進	
●歴史文化遺産を生かした観光の振興 <ul style="list-style-type: none"> *「逢坂の関記念公園」の整備 *「堅田観光駐車場」の整備 *「紀貫之顕彰事業」の実施 *古都指定都市との連携強化 *「古都大津千年絵巻」の人物ゆかりの地との交流 *「源氏物語千年紀事業」の推進 	●自然を生かした地域の整備 <ul style="list-style-type: none"> *近江舞子周辺の整備 *比良山麓周辺の整備
●心を癒いやす観光の振興 <ul style="list-style-type: none"> *「(仮称)観光交流センター」「雄琴温泉公園」「足湯」の整備 *エコツーリズム・グリーンツーリズムのニーズ調査の実施 *エコツーリズムを展開するNPO などに対する支援 *比良山系情報提供ネットワークの構築 *道標の整備 *市内温泉のPR の強化 *湖上観光の推進 *「道の駅」事業制度を活用した地域振興施設の整備検討 	●観光地のルート化の推進 <ul style="list-style-type: none"> *「広域歴史マップ」の作成 *「古都大津千年絵巻マップ」の作成 *「大津うまいもんブランドの食マップ」の作成
2. 観光情報の発信	
●観光情報発信力のパワーアップ <ul style="list-style-type: none"> *地域の看板となる食事・土産メニューの開発・再発見 *「大津うまいもん検定」の実施 	●JR 駅の駅名改称 <ul style="list-style-type: none"> * JR「雄琴駅」から「おごと温泉駅」への駅名の改称 * JR「西大津駅」から「大津京駅」への駅名の改称

(図表) 観光旅客が行き交うまちづくり 重点化の視点 出典：同計画より

(3) 大津市観光振興基本計画

全国の観光を取り巻く現状や観光のこれからの展望といった社会的な動向をはじめ、大津市観光の現状、大津市の観光振興に向けての提言等が検討され、平成14年に報告書が取りまとめられている。以下に報告書より今後の展開に向けたポイントを整理する。



(図表) 関連検討項目の整理 出典:「大津市観光振興基本計画」大津市

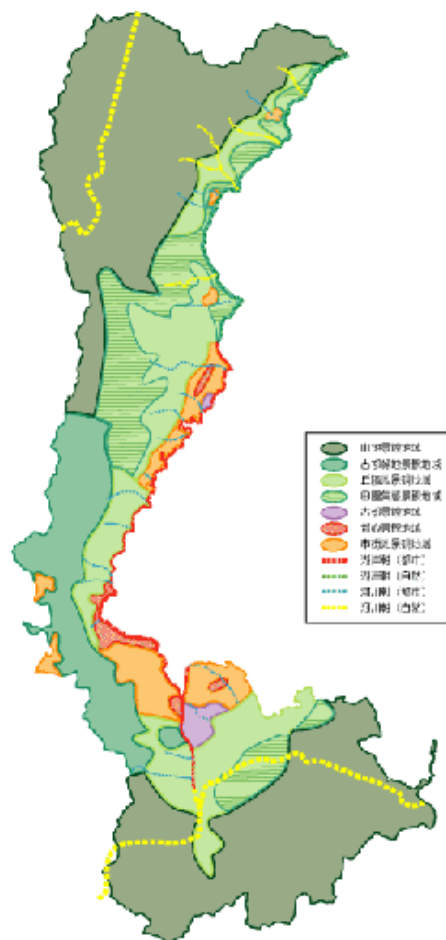
(4) 古都大津の風格ある景観をつくる基本計画

歴史的風土を守り、活かしながら、古都（近江大津京）にふさわしい風格あるまちづくりを進めるために、基本条例に基づき、平成16年4月に策定された（同年6月改訂）。基本目標を実現するため、5つの基本方針に基づき、市域を7つの景観地域と2つの景観軸に区分し、それぞれの景観づくりの方針を定めている。

<基本方針>

- ① 水と緑の大景観を守る
- ② 古都大津の歴史的景観を守り、育てる
- ③ 自然と人々の営みが創り出してきた美しい景観を守り、育てる
- ④ 大津の顔となる景観を創る
- ⑤ 個性ある地域景観を創り、育てる

*近江大津宮：667年（天智6年）天智天皇によって遷都された日本国成立期の枢要な都。我が国最古の戸籍である庚午年籍を整備するなど、律令体制の基礎づくりが行なわれた。



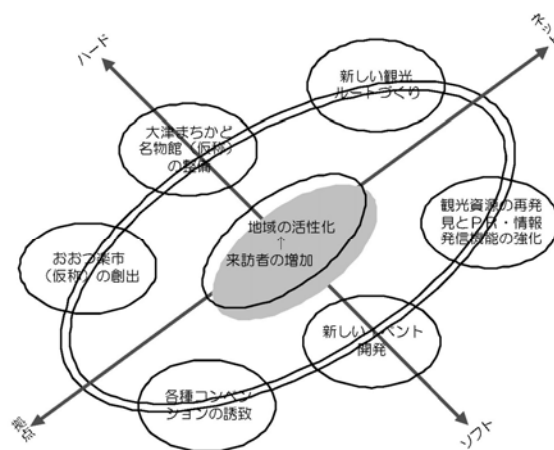
(図表) 景観地域と景観軸

出典：「古都大津の風格ある景観をつくる基本計画」大津市ホームページ

(5) 大津市産業振興ビジョン

賑わいと活力にあふれた「ふるさと都市大津」の実現をめざして市内産業の一層の振興を図るため、「大津市総合計画」の部門別計画として策定。ビジョンは、2010（平成22）年度を目標年度としている。

6つの重点プロジェクトにおいて、（仮称）湖都大津ウェルカム事業の展開として、①観光資源の再発見とPR・情報発信機能の強化、②新しい観光ルートづくり、③おおつ楽市（仮称）の創出、④新しいイベント開発、⑤各種コンベンションの誘致、⑥大津まちなみ名物館（仮称）の整備により来客数の増加を狙う。



(図表) 景観地域と景観軸 出典：「大津市産業振興ビジョン」

大津市ホームページ

（６）滋賀県観光振興指針湖国観光交流ビジョン

県内外の社会経済情勢についての長期的展望を踏まえ、こうした諸情勢の変化に適切に対処し、より効果的・創造的な施策の展開を図ることができるよう、21 世紀における本県観光振興の総合的な指針として、平成 13 年 11 月に策定。

以下、第 2 章において述べられている滋賀県観光の現状と課題を整理する。

＜現状＞

●豊富な観光資源 ●恵まれた立地 ●観光旅客者の 8 割以上が日帰り客で、宿泊客の割合は少ない ●観光旅客者の 6 割が県内在住者・延観光旅客者数はここ数年横ばい ●宿泊客のうち 8 割が県内で宿泊、県外での宿泊は京都府が大半 ●「休息・保養」目的の来県が多数 ●東近江、湖東、湖北地域は広域観光型 ●1 人当たりの宿泊単価は減少傾向 ●少ない外国人旅行者

＜課題＞

観光新時代へ
の対応

- 観光資源の発掘と活用
- 効果的かつ多様な情報の発信
- 受け入れ体制の充実

← 個性あふれる
地域づくりの
推進

（図表）滋賀県観光の現状と課題 出典：「滋賀県観光振興指針湖国観光交流ビジョン」 滋賀県



（図表）観光振興戦略

出典：「滋賀県観光振興指針湖国観光交流ビジョン」 滋賀県

I-3. 大津市における観光活性化に向けた課題の整理

(1) 観光状況から見る問題点の整理

各種観光調査のデータ等から、大津市における観光の問題点を以下に整理する。

問題1: 宿泊客数の低迷

以下に宿泊に関する状況を整理する。

- ◆ 大津市を訪れる観光旅客者は日帰り客が約9割を占め、宿泊客が少ない。
- ◆ 月別の入込客は8月が最も多いが宿泊率は連動していない。
- ◆ 滋賀県の宿泊客は、大半が近畿地区からであり、遠方からの宿泊客は京都府と比較し圧倒的に少ない（ターゲット範囲が狭い）。
- ◆ 滋賀県以外で宿泊、京都府を宿泊地とする観光旅客者が多い。

<宿泊客数低迷の要因>

観光状況から、大津市を訪れる観光旅客者像は大きく以下の2タイプが多いと想定される。

- ①近隣都市からの日帰りの観光旅客者が多い
- ②歴史観光都市として確立されている京都を主目的とし、副目的に大津市を訪れる観光旅客者（短時間の滞在）。

問題2: 観光都市としてのイメージ不足

大津市には歴史文化資源や自然など、様々な観光資源が集積しているが、観光資源の種類が豊富であるため、全体としてのイメージや観光の主となるテーマがとらえにくい状況にある。

「大津市観光振興基本計画」においても、大津市観光の問題点として、観光イメージの不足が指摘されており、観光イメージの異なる4地区（堅田、坂本、浜大津・膳所、石山地区）の持つイメージをメリハリなく広報し、市を代表するイメージを1つに絞りきれずにいるとされている。即ち、観光旅客者を引き寄せる魅力が他都市等と比較し、明確に区別化されていない、「観光都市」としてのアイデンティティが確立されていない点である。

<主な問題要因>

①日本一の湖「びわ湖」が活かされていない

大津市における月別の入込数は、8月が最も多くなっている。夏期の観光形態はレジャー・レクリエーションが中心であると考えられるが、目的別入込客数では、琵琶湖に関連するレジャーや遊覧船を目的としたものが1割弱（9%）に止まっている。

②隣接する歴史都市「京都」との異なった魅力、イメージの不足

③市全域で観光都市としての取り組み不足（市民意識を含む）

問題3: 県内他都市との回遊が少なく、市域のみで完結する観光形態

「平成17年滋賀県観光動態調査報告書」において大津市の観光旅客者流動を見ると、県内他都市を回遊する観光旅客者は少なく、市域のみで完結、もしくは他県を目的とした観光旅客者が多いと想定される。

別の見方を行うと、他地域を目的とする観光旅客者は、滋賀県における交通結節点である大津市を素通りしている人が多いと考えられ、こうした状況において観光活性化、交流人口を図っていくためには、通過観光旅客者を吸引する戦略や仕掛けづくりなどが必須となる。

n= 1784		
滋賀県	大津・志賀	516 28.9%
	湖南	99 5.5%
	湖北	81 4.5%
	東近江	65 3.6%
	湖東	59 3.3%
	湖西	36 2.0%
	甲賀	34 1.9%
	その他	894 50.1%

(単位:人) (単位:%)

(図表) 観光流動

出典:「平成17年滋賀県観光動態調査報告書」滋賀県

<他地域等との連携不足>

市域単独ではなく、異なる魅力を持つ地域との連携、観光ルートの設定等を行い、相互で魅力を補完することで、様々な観光ニーズに適応した施策を構築することが必要である。

問題4: シティセールスの不足

大津市をPRする情報媒体は、観光案内パンフレット等の紙媒体と中心に比較的充実しているが、ここで問題として取り上げるべき内容は、「情報は発信し、受け手側に届かなければ効果を高めることは期待できない」という点である。

即ち都市を商品として、その魅力をどれだけ消費者に伝えられているか、そしてその情報は、消費者が欲するものとしての確に発信できているかということである。

また、ウェブサイト（ホームページ）は、情報ネットワークが確立された現在、魅力を伝える情報ツールとして非常に有効な情報媒体として位置づけられるが、大津市の観光案内を行う主なウェブサイトは、多言語に対応していないものが多い。

こうした個々の情報媒体の状況についても把握するとともに、ターゲット（対象客層）が求める情報として正しく展開し、効果的なプロモーション、シティセールスを行っていくことが重要である。

（２）観光活性化に向けた課題の整理

＜観光活性化に向けた課題解決のためのステップ＞

＜ステップ１＞

課題：観光資源の魅力を高める取り組みの推進・強化（点）

大津市は、世界文化遺産に登録されている比叡山、日本一の面積を誇る琵琶湖、国の伝統的建造物群保存地区に指定され古都としての風景を形成する坂本地区、瀬田の唐橋や建部大社などの見どころが集まる石山地区などが集積し、観光誘客を図る都市としてのポテンシャルを持つ。

観光活性化を図るためには、観光資源個々の魅力を高めていくことが基本であるが、既存の資源については、ホスピタリティの向上や季節や時間毎に変化のあるイベントの実施等によりリピート率を高めていく取り組みを推進、強化することが必要である。そして、既存資源の魅力を向上させるとともに、新たな資源の発掘や観光商品の開発などを視野に入れた取り組みを推進・強化を図っていくことも重要である。

＜ステップ２＞

課題：都市・地区間の観光ネットワークの構築（線）

単独の観光資源のみでは、多様なニーズを持つ観光旅客者を引き寄せることに限界がある。

更なる観光誘客を図るためには、散在する観光資源をつなぎ、１つのパッケージとして回遊性のある観光スタイルの形成、相互の魅力を補完する観光ネットワークを構築することが必要であり、そのためには都市・地区間の連携や交流を推進していくことが前提である。

【人・地域をつなぐ】

- ◆ 観光都市としての市民意識を高める
- ◆ 都市・地区間の連携や交流を推進・強化

【観光資源をつなぐパッケージ、案内システムの形成】

- ◆ 回遊型観光モデルの検討（宿泊拠点と核とした地域観光圏の形成）

宿泊拠点とその周辺の観光資源が集積する拠点地域を設定し、相互のネットワーク化を図ることでパッケージとしての地域の魅力が高まり、更なる地域の活性化、宿泊者をはじめとした交流人口の増加に期待が持たれる。

- ◆ 観光資源の案内システムの検討（ＩＴ機器を活用した観光案内システムの構築）
（事例は第Ⅱ章で整理）

＜ステップ3＞

課題：観光都市イメージの構築(面)

観光旅客者を引き寄せる基本的な項目として、都市イメージや観光テーマの設定があげられる。

都市を全く知らない人が見ても具体性があり、分かりやすいテーマとすることが必要であり、更にはそこにしかない魅力をアピールすることが重要である。

大津市周辺には、歴史観光都市としての地位を確立する京都や、「近江八幡の水郷」として文化財、重要文化的景観の第1号に選定された近江八幡等をはじめとした観光都市が存在するが、こうした他都市との差別化を図る観光都市としてのイメージを構築し、シティセールス、プロモーション活動を行っていくことが必要である。

「オンリーワン資源」の発掘（出典：国土交通省 総合政策局観光部門ホームページ）

各地域には、従来からの送客側の旅行者主導の「受け身」の観光振興策ではなく、宿泊業者や土産業者といった狭義の観光関係者に加え、行政や地域住民、農林水産業者、商工業者等幅広い関係者が一体となって、当該地域にしかない観光魅力＝「オンリーワン資源」を発掘するとともにそれを観光商品に組み込み、市場に積極的に流通させていく「攻め」の観光振興策が求められているところです。

神戸のイメージ調査（出典：神戸市国際文化観光局観光交流課ホームページ）

神戸市では、今後、神戸観光のプロモーションを行なっていくための基礎データとすることを目的に、「神戸のまち」が、神戸市以外の人々にどのようなイメージをもってとらえられているかを把握するために「神戸のイメージ調査」を東京（上野公園内都立美術館前）、仙台（JR仙台駅構内）、福岡（西日本鉄道株式会社天神駅構内）の3箇所で開催している（総サンプル数900）。

結果、神戸のイメージについては、総合では「港」が30.2%と最も高く、次いで「異国情緒」28.7%、「お洒落なファッション」15.6%、「六甲の山と緑」11.9%、「グルメ」5.9%の順であった。

こうした調査は、毎年実施している神戸市観光動向調査においても設問にあげられ、その動向について分析されている。

また、神戸市では、多くのイベントを実施するとともに、細かな点ではメインストリートなどでバナーの掲出や花壇の設置、レトロモダンな照明灯の設置などが行われ、観光都市としてのイメージを定着させるまちづくりが行われている。

（写真）スポンサー花壇／誘客率の高い、市内で人気の主要観光地や駅周辺に、企業・団体名の入ったプランターを設置



<ステップ4>

課題:効果的なシティセールス(発信)

観光を通じた地域の活性化を図るためには、観光者ニーズに即した施策の実施とともに、効果的なシティセールス、プロモーション活動を行うことが重要である。

【ファムトリップ(*1)等でのシティセールス、プロモーション活動の実施】

大津市の観光旅客者の多くは近畿圏からであるが、一層の誘客を図るためにはターゲットを拡大することが必要である。ファムトリップでは、多くの旅行関係者が集うことから観光PRをする場として有効である。

*1)略して「ファム」(Fam)と言う。大会・会議用施設側が将来バイヤーとなる可能性のある組織の代表者らを現地に招いて下見を目的としたセミナーを催し、これによって会場利用契約成立の機会の増大を図る。複数の組織の代表者を招いて行う場合もあれば、個別に招く場合もある。(資料：JNT0：国際観光振興機構ホームページ)

【観光推進体制の構築】

観光推進体制の構築は、シティセールス、プロモーション活動においても非常に重要な取り組みである。

大津市を含め、観光資源を周知する組織として、(社)びわこビジターズビューローや(社)びわ湖大津観光協会、そして地区の観光協会、各所の案内所等が活動しているが、こうした組織や観光施設、また交通機関などと連携した情報発信体制づくりを行い、それぞれの役割に応じた取り組みを図っていくことが重要である。

また、直接的に観光に関わる事業者だけではなく、地域住民や観光関連のNPO等の参画も促し、多様な視点で観光の活性化を図ることも視野にいられておくことが必要である。

【他都市の資源と組み合わせたプロモーション】

世界文化遺産として登録されている比叡山は、他の文化遺産との連携を図り、諸外国をターゲットとしたプロモーション展開が考えられる。

<参考>世界文化遺産について(出典：「日本を変える観光力～地域再生への道を探る」堀川紀年著
同文献において、世界文化遺産を生かした観光づくりの基本方針として以下が述べられている。

①世界遺産は単なるブランドではない、②世界遺産は“点”の魅力ではない、③世界遺産を一時的情緒的なブームにしてはならない

そして、期待できる効果としてブーメラン効果が述べられている。(以下文献抜粋)「われわれ日本人が気づいていないことを海外の人がよく気づいて、それを評価して、それが海外からの情報として戻ってくることによって日本人が改めて気づく、というまさにブーメラン効果というものが出てくる」

近畿には、「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界文化遺産に登録された高野山や、京都では銀閣寺などが登録されている。

単独でのプロモーションではなく、連携を図ることでメディアへの露出が一層高まり、世界文化遺産である比叡山延暦寺の知名度が国内外を問わず高まるものとなる。

(図表) 関西世界文化遺産マップ
出典：関西広域機構（KU）ホームページ



課題: 観光施策の実施

「大津市観光振興基本計画」では、13の具体的な観光振興施策（観光振興のための短期的施策）、アクションプランが掲げられており、また、同計画とともに、総合計画の観光部門として策定されている「大津市産業振興ビジョン」においても同様の施策実施が設定されている。観光活性化を図るためには、こうした既存の関連計画の早期実現が必須である。

＜観光振興の具体的施策＞ 出典：「大津市観光振興基本調査 報告書 平成14年3月」

①「びわ湖大津」のC Iの展開、②琵琶湖の美しさを訴えたPR、③環境に優しい街、環境保全に努める街大津のPR、④散策道としての街道PR、⑤なぎさ公園の積極的な利活用、⑥観光地を歩いて楽しめる環境整備、⑦多様な移動手段の提供、⑧市民を取り込んだ観光振興、⑨観光施設の提供、⑩メディアや旅行会社との連携、⑪新しい情報媒体の活用、⑫体験メニューのPRと充実、⑬総合的なまちづくりの推進

具体的施策の「⑬総合的なまちづくりの推進」において、以下が述べられている。

「観光は総合行政ともいわれており、行政各部門が観光からの街づくりを推進するため、より一層連携を親密にして総合的なまちづくりに取り組む必要がある。」

この項目は、今後の観光施策や取り組みの方向性を位置づける重要なものであり、例えば「古都大津の風格ある景観をつくる基本計画」などは、その景観を観光資源として位置づけられるものと考えられる。こうした状況をふまえ、観光振興及び活性化を図るためには、市が一丸となって取り組むことが求められる。

第Ⅱ章. 大津市における回遊型観光モデルの検討

Ⅱ-1. 観光圏の検討

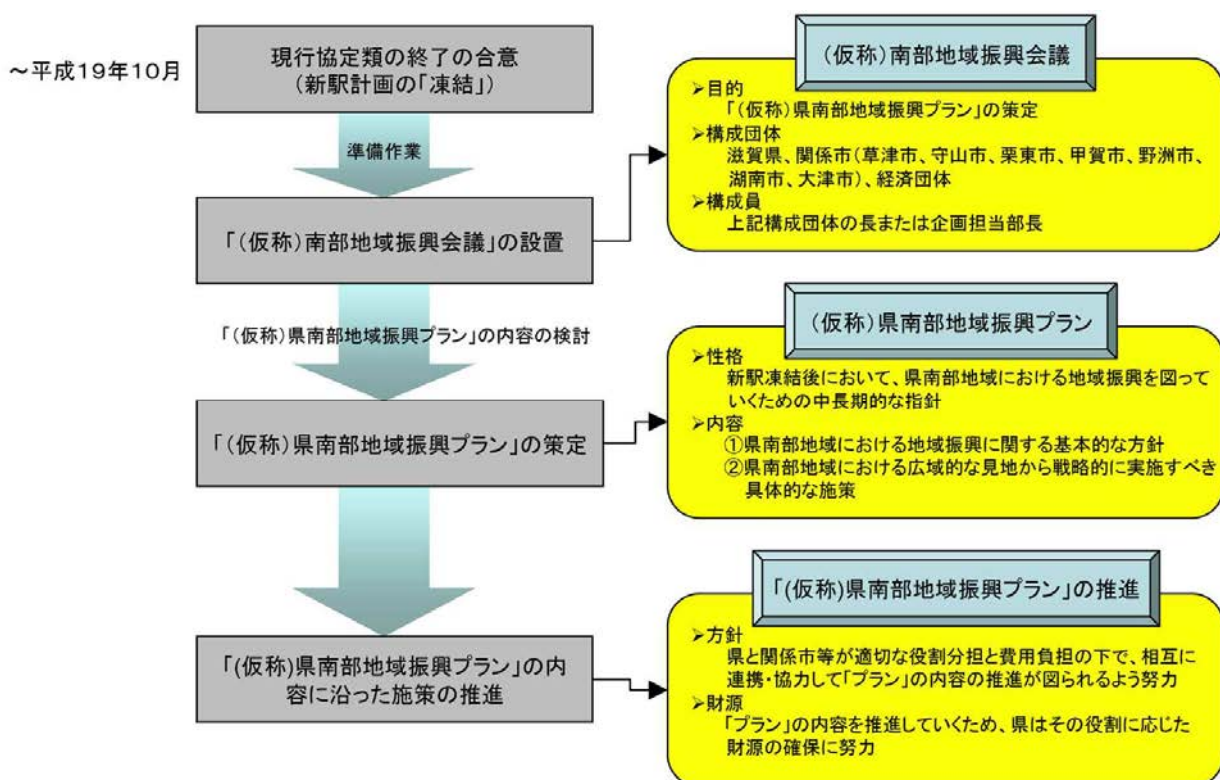
(1) 大津市を取り巻く観光圏形成に向けた背景

滋賀県では、「県南部地域（大津、湖南、甲賀地域）における地域振興の方向性に関する県の考え方について」が検討されており、その中で大津市を含めた観光振興の方向性として広域観光の振興を図ることが課題として述べられている。

県南部地域における地域振興の方向性について＜広域観光の振興＞

県南部地域固有の自然や歴史、文化、地域産業などを活かしつつ、新たな観光資源の創出や受け入れ環境の整備を促進するとともに、効果的かつ多様な観光情報を発信することにより、県南部地域への来訪者の増加を図る。

- 県南部地域における周遊観光の推進
- 宿泊滞在型観光の推進等



(図表) 「(仮称) 県南部地域振興プラン」 の策定のフロー

出典：「県南部地域における地域振興の方向性に関する県の考え方について（案）」（平成19年10月24日）滋賀県

（２）国際競争力の向上を促進する国土施策の動向と取り組みの方向性

これまで、国では観光地の活性化に取り組む民間の活動を支援し、国際競争力の向上を目的とした観光ルネサンス事業が進められてきた。

そして更なる国際競争力の高い魅力ある観光地の形成に向けて、圏域を越えた広域連携により、日本人旅行者を含めた観光旅客者の滞在日数を長期化する観光圏整備に移行しつつある。

その施策として、今後の取り組みの方向性を以下に整理する。

【取り組みの方向性】

観光圏整備による観光旅客者の滞在を長期化

効果①国際競争力の高い魅力ある観光地の形成、②内外観光旅客者による２泊３日以上
のより長期の滞在を拡大、③地域経済の活性化

【観光圏形成の考え方】

観光圏の目指す方向 一点から線、線から面へ		旅行者のニーズをふまえた具体的な 実践活動が必要 ＜圏域単位でのサービス品質向上と ブランド化＞
（１）地理的広がり ○宿から街へ ○街から周辺地域へ	3つの連携を強化→ ①観光業と他業種 ②地域産業と自治体 ③地域と地域	○ 宿泊 ・泊食分離、地産地消の販路拡大等宿から街への観光客の送り出し ・共通入湯券導入等宿泊エリアのもてなしの向上
（２）時間的広がり ○日帰りから宿泊へ ○1泊から連泊へ ○特定時期の集客から通年化		○ 観光資源 ・体験・学習・交流・食のメニュー（特に早朝・夕刻）の充実 ・本物・ゆかり・差別化・こだわりによるブランド化
（３）人的広がり ○客からファンへ（リピーター） ○週末住民、二地域居住		○ 交通・移動 ・移動をコスト（負担）からベネフィット（楽しみ）へ転換する工夫 ・アクセスの改善による集客力強化と域内の移動の容易化 ○ 案内・情報提供・マーケティング ・観光旅客のニーズ・目的に対応した提案型の観光案内の強化 ・顧客満足度の向上と予約・販売の共通化、会員制などマーケティング能力の向上

（図表）観光圏整備事業の考え方 出典：「観光圏整備事業～観光圏形成の必要性」国土交通省資料

大津市に訪れる観光旅客者は近畿圏からの日帰り客が多いが、首都圏や海外観光旅客者など他圏域からの誘客を図ることで、滞在及び周遊型の観光旅客者の増加につながると考えられる。

そのためには、市における観光施策の取り組みはもとより、他都市等との広域的な観光ネットワーク形成、圏域を越えた観光施策への取り組みが求められる。

【観光圏整備イメージ】



(図表) 観光圏整備のイメージ

出典：「観光圏整備事業～観光圏整備による観光旅客の滞在の長期化」国土交通省資料

【観光圏整備の4つのポイント】

1. 宿泊	2. 観光資源
3. 交通・移動	4. 案内・情報提供等

観光圏整備に向けた4つのポイントを視点に、大津市における観光圏のあり方を整理する。

（３）大津市における回遊型観光モデルの検討

＜はじめに＞

観光旅客者は行政区域にとらわれることはなく、広がりを持った視点でプラン検討や行動していることが一般的である。各観光都市では魅力ある観光地づくりを進めるため、関係機関と連携した協議会を設立し、行政区域を越えた広域観光を推進しており、その内容を大別すると、「歴史街道」などの線的な資源（観光ルート）を活用した広域観光の形成、「源氏物語千年紀」など同様のテーマやイベント、資源を通した広域観光の形成などがあげられる。

回遊型の観光スタイルを形成していくためには、観光協会をはじめとした大津市内関係機関との連携はもとより、テーマに即した地域や都市との連携を図り、ともに魅力ある観光地づくりに取り組んでいくことが重要である。

また、回遊型観光の構築を図るための個々の取り組みとして、快適な移動環境の提供、観光案内板をはじめとした情報媒体の統一化、観光案内所の広域化なども利用者の立場に立って検討を進めていくことが求められる。

本回遊型観光モデルの検討においては、こうした考え方にに基づき、且つ、観光旅客者の長期滞在を促す観光圏形成に向けた視点で①宿泊、②観光資源、③交通・移動、④案内・情報提供等について、それぞれの基本的な考え方と、大津市における取り組みのイメージ、そして今後のあり方について検討を行うものとする。

【基本的な考え方】

観光旅客者を連泊（２泊３日以上）させる・促進するための観光モデル

観光旅客者の長期滞在を促す観光圏の形成

①宿 泊

＜考え方＞

宿泊メニューの多くは、宿泊と食事がセットになっているものが多いが、泊食分離の形態を取り入れることで、食事時間にとらわれない自由な旅行形態、和食に慣れていない外国人や他の場所で郷土料理を求める人への対応など、多様な観光旅客者ニーズに呼応できるほか、旅行費用を軽減できるといったメリットを提供することができる。

泊食分離の形態は、宿泊施設側にとって食事分の収入が少なくなるといったデメリットがあるが、観光旅客者の回遊性が高まることで、地域全体への経済波及などが期待できる。

そのほか宿泊施設に関する取り組みとしては、宿泊施設外観整備、共通食事クーポン・共通入浴券の企画開発、従業員の研修、旅行商品の開発（後述）の推進などがあげられる。

（写真） おごと温泉



<取り組みイメージ>

回遊・滞在型観光の促進を目的として、周辺地域の様々な資源とネットワークを図っていくことが必要である。回遊・滞在型観光の核となる宿泊拠点については、大津市で宿泊客数が43.1万人と最も多い温泉地である雄琴地区があげられる。

雄琴地区は、京都・近江の奥座敷として古くから賑わってきた地区であり、温泉設備のある宿泊施設が集積する。温泉のみ利用ができる宿泊施設、琵琶湖汽船のクルーズ船が発着する「おごと温泉港」があることから、観光内容や移動手段といった観光プランを観光旅客者が自在にアレンジすることが可能である。

プランの一例としては、おごと温泉港を出港するクルーズ船を経由し、大津港などからミシガンをはじめとした大型旅客船に乗ることで、ランチやディナーといった「食」のプランを利用するといった楽しみ方などがあげられる。

こうした旅客船が提供する「食」のプランと宿泊施設や各種資源を組み合わせた、泊食分離のメニューを構築することで、観光旅客者の回遊性を促すことに期待がもたれる。



(図表) 琵琶湖大橋クルーズのルート 出典：琵琶湖汽船ホームページ

観光旅客者の長期滞在を促す観光圏の形成

②観光資源

<考え方>

近年の観光スタイルは観る観光から、地域に滞在し、活動への参加、学習、体感といった滞在型の観光形態を求める観光へと変化をしている。各地では多用な観光旅客者ニーズに即したメニューが企画、実施され、地域独自の新たな観光スタイルが形成されているが、早朝や夕刻に行うメニューを用意することでは、宿泊を促すことにつながる。

そして、旅行業法の特例を受け、旅行業者だけに認められている観光商品の販売を、圏域内の周遊ツアーなどに限って旅館・ホテルなどの宿泊施設ができるようになることから、滞在型のメニュー開発を促し、宿泊客の確保、経済消費を拡大していくことが求められる。

<取り組みイメージ>

比叡山延暦寺会館での修行体験、琵琶湖で行われている漁体験、湖南での焼き物体験など市域内外を含めた観光商品の連携、観光資源を活かした魅力ある観光商品の開発、そして雄琴地区をはじめとした宿泊施設での観光商品の販売を促し、観光旅客者へのサービス向上に取り組んでいくことが必要である。



(写真) 比叡山延暦寺会館の修行体験

③交通・移動

<考え方>

移動を楽しみに変換するためには、快適な移動環境を提供するとともに、移動に伴いその地の魅力が感じられる創意工夫が必要である。具体的には、周遊割引券の導入をはじめ、風景そのものを観光資源として位置づけた道路景観整備などがあげられる。

<取り組みイメージ>

大津市には、周辺都市にはない交通手段として大型旅客船やクルーズ船が存在する。こうした船は、琵琶湖を通じて変わりゆく風景を眺望できるなど、「移動」を「楽しみ」に変換するものとして最も効果的な交通手段であることから、移動ネットワークの主軸として位置づけを行い、観光旅客者の回遊性を高めていくことが求められる。



(写真左) クルーズ船「インターラーケン2」(写真右) 大型旅客線「ミシガン」

出典：琵琶湖汽船ホームページ

また、その他の交通・移動に関する取り組みとして琵琶湖湖畔や瀬田川の風景を活かしたアクセス路の整備などがあげられる。

④案内・情報提供

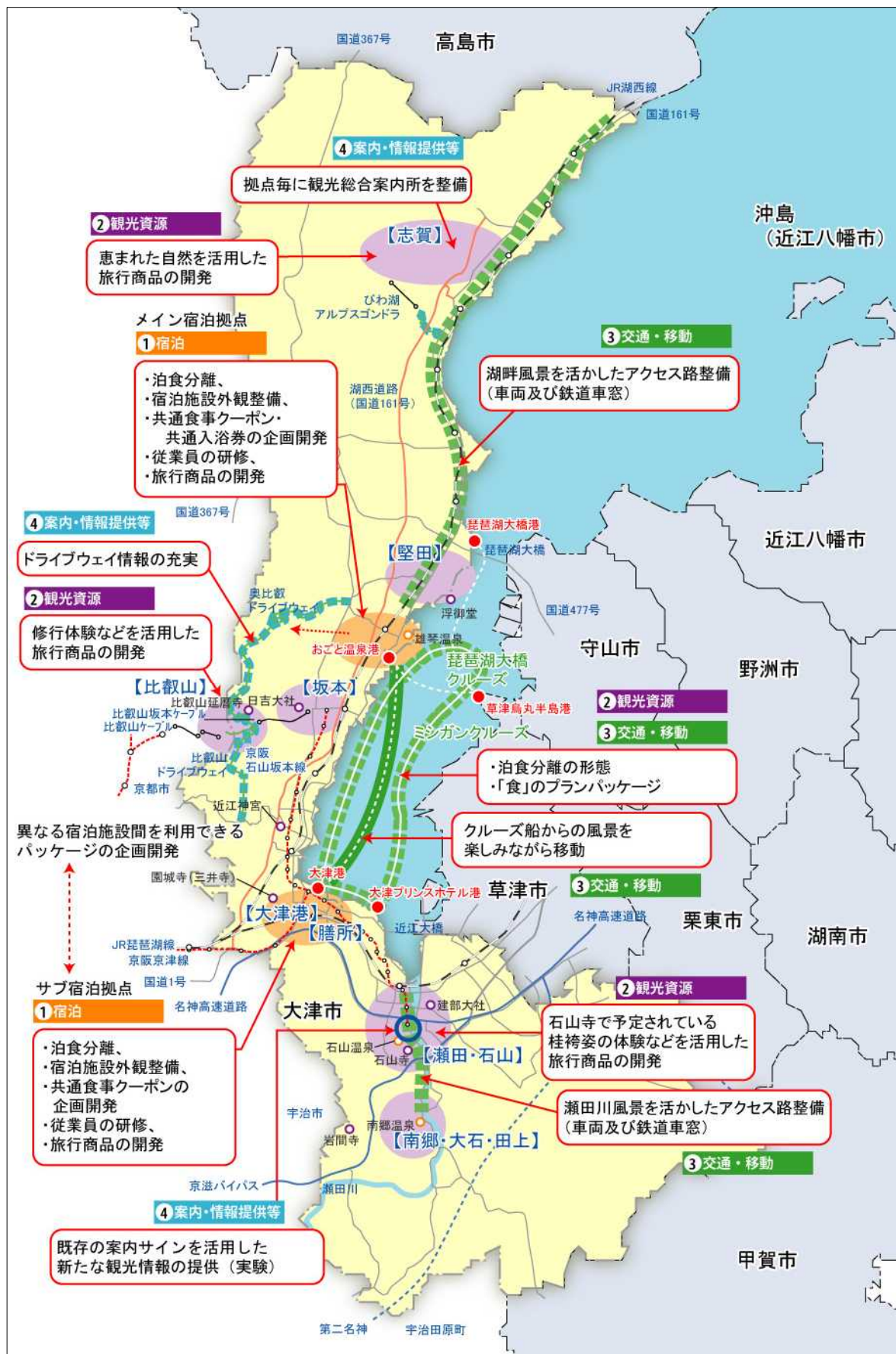
<考え方>

先述した交通・移動を快適に提供する要素として、的確な案内・情報の提供があげられる。具体的には、案内標識の充実、観光総合案内所の整備などがあり、また多様な観光旅客者のニーズに即した観光案内システムを展開することも視野に入れておく必要がある。

<取り組みイメージ>

固定の情報は、情報量が限定されるほか、多様なニーズへの対応が困難なことから、1つのメニューとしてIT機器を活用した案内が考えられる。

案内・情報の提供については、以後、「Ⅱ－2．観光案内ネットワークの検討」において詳述する。



(図表) 回遊型観光モデルを目指した項目別の整備イメージ

(4) 観光圏の形成に向けた課題の整理

観光旅客者の長期滞在を促す観光圏の形成に向けては、観光協会をはじめとしたA T A、観光及び宿泊施設、旅行会社といった関係機関はもとより、交通事業者、道路管理者など観光整備に関わる事業者・団体が一体となって取り組んでいくことが必要である。

そして、市内の関係者とともに周辺都市と連携し、旅行商品の開発やイベントの実施、情報媒体の統一化などの観光施策を行っていくことにより、観光旅客者の回遊性を高め、長期滞在を促していくことが必要である。

観光ルネサンス事業に代わり、更なる国際競争力の高い魅力ある観光地の形成を目的とした観光圏整備については、地域の関係者（市町村、都道府県、観光事業者、農林水産業者、商工業者、NPOなど）の協議を踏まえた市町村又は都道府県による観光圏整備計画の作成が必要であることから、圏域を越えた連携、枠組みづくりが必須となる。



(図表) 観光圏整備の概要

出典：「観光圏の整備による観光旅客の来訪及び滞在の促進に関する法律案」

国土交通省総合政策局観光地域振興課

Ⅱ-2. 観光案内ネットワークの検討

(1) IT 機器を利用した観光案内の背景

現在、IT 機器を利用した観光案内が各地で実験的に行われている。その背景として、国土交通省が地域の観光振興を推進することを目的として取り組んでいる「まちめぐりナビプロジェクト」事業（公募型プロジェクト）があり、IT 機器を利用した観光案内は同事業の 1 つのメニューとして位置づけられている。

＜「まちめぐりナビプロジェクト（まちナビ）」（平成 18 年 国土交通省）事業概要＞

現在、我が国においては「観光立国の実現」をめざし、2010 年（平成 22 年）までに訪日外国人旅行者数を 1,000 万人に倍増させることを目標に、『ビジット・ジャパン・キャンペーン』として外国人観光旅客の誘致や国際競争力のある観光地づくりなど様々な取り組みを進めている。

観光地づくりの推進にあたっては、日本人・外国人を問わず、訪問先の地理に不案内な観光旅客者の移動円滑化を図ることが重要な施策のひとつであるが、観光旅客者への情報提供の高度化による移動支援の先進的な事例をつくるため、平成 18 年度より公募によるプロジェクトを実験的に実施している。



(図表) 「まちめぐりナビプロジェクト（まちナビ）」のメニュー例

出典：国土交通省道路局ホームページ

＜「まちめぐりナビプロジェクト（まちナビ）」個別事業（例示）＞

- 観光情報提供のための体制の構築
- 通りの名前を利用した道案内
- 携帯電話等を利用した歩行者の移動支援
- 交差点標識とカーナビ等を連携させた案内システムの構築
- 観光活性化標識ガイドラインを踏まえた情報提供の充実
- 標識や電子媒体等様々なメディアが連携・補完できる情報提供システムの構築
- 外国人を含めた観光旅客者に対する防災情報ネットワークの整備
- 観光案内施設によるきめ細かな情報提供

(2) IT 機器を利用した観光案内の動向

使用する IT 機器は大きく専用機器を利用した案内と携帯電話を利用した案内の 2 種に分類され、各事業の特性、目的、提供サービスやコンテンツなどに合わせて選定されている。

<主な IT 機器種別と概要>

IT 器機種別	1. 携帯電話を利用した案内	2. 専用機器を利用した案内
	観光旅客者が持つ携帯電話を利用するものと、専用の携帯電話を利用者に貸し出す方法が取られている。	専用の機器（ユビキタス・コミュニケーション）を利用者に貸し出し、利用後に回収する。 
主な事例	ケータイ城下町まち遊び (滋賀県彦根市) ※内容後述	神戸空港ユビキタス実証実験～自律移動支援プロジェクト (兵庫県神戸市)
概要	主に利用者が QR コード（バーコードリーダー対応機種）やその他情報ポスターなどの媒体を通じて必要情報を取得する。基本的には、端末とウェブサイトの 2 種で構成されているものが一般的である。	神戸空港における実験では、情報発信装置を別途取り付け、装置が置かれた周辺を通行すると、自動的に情報を受け取るという仕組みが取られている。
主な長所	利用者が持つ機器を利用することで、貸し出しや回収が不要となる。	文字に加え、音声などによるガイドが可能となる。独自のシステムを展開することが可能であり、案内の自由度が高い。
主な短所	画面が小さく、一度に確認できる情報が少ない。また、ボタンや文字が小さいなど、高齢者には適していない。	貸し出し、回収が原則であり、そのための拠点づくりが必要となる。また、携帯電話が持つ短所である文字などの問題は解消されるが、機器重量による利用者への負担、バッテリーの補充などの問題がある。
備考	携帯電話の利用率は、20 代～40 代では 9 割を超えており、60 代後半でも約 5 割という高い利用率となっており、身近な機器として定着している。	専用のシステムが必要であるため、携帯電話と比べ情報の更新などには専門技術を要する。

(3) IT 器機を利用した観光案内の事例調査

<事例：ケータイ城下町まち遊び（滋賀県彦根市）>

観光旅客や来街者が IC タグ（あらかじめケータイメールの登録が必要）やおサイフケータイを端末にかざすことによって、ケータイにメールが届き、インターネットにアクセスすると現在地情報や周辺情報、観光ナビ、タウンナビなどの必要な情報を入手することができるシステムを準備。〔多言語選択可能〕

【対象地域】彦根市

【実験期間】平成18年11月3日～平成18年12月20日

【実施主体】彦根ユビキタス産業協議会



(図表) 彦根市「ひこねまち遊びケータイ」携帯電話で観光情報等を得る流れ 資料：近畿運輸局ホームページ

IC タグ・おサイフケータイ (FeliCa) を使った学習型観光情報案内／観光旅客や来街者が、IC タグやおサイフケータイを電波ポスターのリーダーにかざすことによって、手持ちの携帯電話にメールが届き、インターネットにアクセスすると周辺の観光情報が入手できる。

電波ポスターは、大日本印刷㈱が開発した IC チップと携帯電話を活用したインタラクティブなメディアである。

～以下、大日本印刷㈱ホームページ抜粋


「イベント会場や商業施設などに設置されたポスターに、サービス利用者が IC タグをかざすことにより、そのポスターの内容に関連した電子メールが、サービス利用者の携帯電話に自動送信される、当社オリジナルの情報配信システムです。」



＜その他の事例＞

□事業名（事業主体）〔実験期間〕	□対象地	□事業概要
■堺市まちめぐり観光ナビサービス （堺市まちめぐり観光ナビ協議会） [平成 18 年 11 月 23 日～平成 19 年 1 月 31 日]	堺市	観光旅客者が利用しやすい観光マップ（Nコードマップ）・観光案内リスト（Nコードリスト）を作成。また、GPS 携帯電話により自己位置のNコードの取得、周辺観光地の検索等を行うことができるシステムを構築
■関西国際空港を玄関口としたホスピタリティ推進 （『関西国際空港を玄関口としたホスピタリティ推進』協議会） [平成 18 年 12 月 1 日～平成 18 年 12 月 31 日]	関西国際空港、大阪・梅田駅周辺	関西国際空港ターミナル内で関西観光情報センターへの誘導サインの拡充、多言語版の関西空港駅構内図（床面）に設置、交通アクセスガイド（主要な行先別に交通経路の選択が可能）の配布、リムジンバス（大阪・梅田）おりば案内マップ及び指差し会話シートの配布等を行い、国内外の観光旅客者の「ひとり歩き」を支援。
■歴史街道観光ナビ「万葉集大人の散歩道」 （藤原京ルネッサンス実行委員会） [平成 18 年 11 月 12 日～平成 19 年 2 月 12 日]	橿原市、桜井市、高取町、明日香村、吉野町	観光旅客者が所有する携帯電話から、対象地域内の万葉歌碑や故地、周辺の観光スポットや地図などの情報が掲載されたHPにアクセスして必要な観光情報等を容易に取得し、エリア内を巡ることができるシステムを準備。2次元バーコードを使用して、歌の現代語訳や作者など基本情報、日本語・英語による万葉歌碑に関する情報、歌碑などへのルート表示サービス、おすすめ散策コースや周辺の観光情報などを提供。
■口熊野田辺のまち案内 （田辺地域まちなか観光ナビゲーション推進協議会） [平成 18 年 12 月 1 日～平成 19 年 2 月 28 日]	田辺市	市内3ヵ所での貸し出し、又は観光旅客者所有のMP3プレーヤーに予め音声データを入力しておき、まちなかを歩いて見所に設置した「案内プレート」の番号を押すと、場所にゆかりの人や地元の語り部の解説で風土等の情報を聞くことができるシステムを準備。
■二次元コードによる歩行者案内高度情報化 （神戸主要観光地域サイン情報化協議会） [平成 18 年 12 月 11 日～平成 19 年 2 月 4 日]	神戸市	観光旅客者が所有する携帯電話で街中の案内板に設置された二次元コードを読み取れば、そのポイント周辺の情報が掲載されたHPにアクセスして必要な観光情報等を容易に取得できるシステム、及び、別の観光スポットまでのパノラマ写真による街角ルート案内システムを準備。

（図表）平成18年度「まちめぐりナビプロジェクト」実証実験事例 出典：国土交通省近畿運輸局ホームページ

□事業名（事業主体）〔実験期間〕	□対象地	□事業概要
ゆびナビ～高野山観光ナビ（高野山観光ナビ準備会） [平成 19 年 11 月 1 日～平成 19 年 12 月 9 日] 	高野山	主な事業内容：観光旅客者や来訪者が所有する携帯電話から、HPにアクセスすると、観光スポットや宿坊・飲食店・公衆トイレ等の情報や滞在予定時間別の観光モデルコース、お帰りのバスと電車の接続状況の情報を取得できる。

〔図表〕平成 19 年度「まちめぐりナビプロジェクト」実証実験事例 出典：国土交通省近畿運輸局ホームページ

その他「まちめぐりナビプロジェクト（まちナビ）」に関する内容

（国土交通省ホームページ抜粋）

○プロジェクトの目的

道路等を利用した観光旅客者への情報提供の高度化による移動支援を図り、もって先進事例として地域の観光振興を推進すること。

○実施主体（応募主体）

単一又は複数の地方公共団体または国の行政機関が設置する関係者からなる協議会。

○実施事項

上記実施主体が基本方針等を検討の上、当該方針に従って事業を実施。実施にあたって国と地方公共団体等が適切に役割・費用を分担。

(4) 大津市における観光案内手法の検討

＜社会実験（案）＞

既存の案内サインを活用した新たな観光情報の提供

①既存案内サインの概要

既存の観光案内を行う媒体として、大津市では市内各所に統一されたデザインの案内サインが設置されている（写真参照）。

サインの情報面には、「現在地（観光資源名称）」、「案内施設の方向と距離」、「周辺地図」、「散策ルート」、「観光資源の説明」などが掲載されており、言語は日本語と英語の2種で構成されている。

（写真）石山寺に設置された案内サイン



②既存案内サインを活用した情報

詳細な説明などは、サイン盤面サイズにより限定されるが、先述した IT 機器との連携を図ることにより、無限の情報を提供することが可能となる。

また、既存のサインを活用することで新規建柱工事などが不要となり、整備コストの削減行えるほか、新たな施設設置により周辺の風景に与える影響がなく、管理面においても比較的その負担を軽減することが可能になる。

＜既存施設を活用した観光案内の事例＞（兵庫県神戸市）

出典：神戸市建設局道路部ホームページ

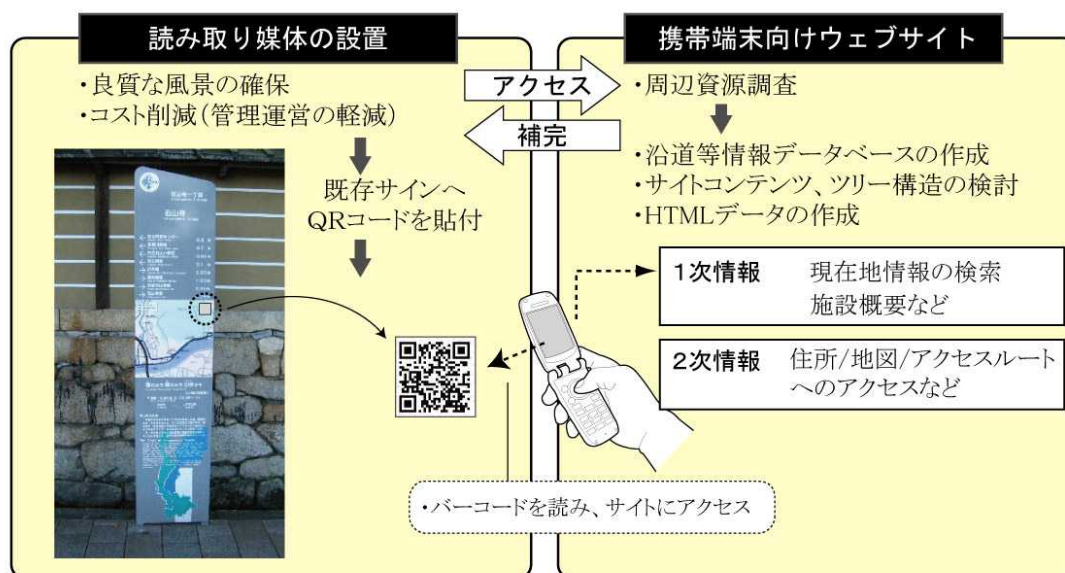
「歩行者系案内サインへのQRコード掲載」

神戸市では、三宮や元町をはじめとする都心部において、地図を配した歩行者系案内サインを設置し、来訪者や観光旅客等への情報を提供しています。この歩行者系案内サインのスペースの一部を活用して、民間が管理する地域情報などを発信する携帯端末用ホームページに面倒な入力なしにアクセスできるQRコードを掲載することにより、道路利用者の利便性の向上はもとより、道路施設を活用した地域や民間の情報発信を促進するための社会実験を実施します。（以上 部分抜粋）



③IT 機器と既存サインの連携(QRコードを活用した観光案内情報システム構成案)

QRコードを活用した観光案内情報システムを構築するためには、大きく2種の情報整備が必要となる。1つは現地において、読み取り対象となるコードの設置、1つはその受け皿となる携帯端末専用のウェブサイトの構築である。以下に、その主な構成を図において整理する。



(図表) QRコードを活用した観光案内情報システム構成案

④大津市における観光案内情報システムの位置づけ

こうした携帯電話とウェブサイトを活用した案内の手法は、サインなどの整備と比較し建設コストなどは削減されるが、初期整備コストと運営管理、そして情報更新などのランニングコストは必要であるため、実施にあたっては、社会実験的に地区を限定(情報量を限定)したモデル事業と位置づけ、効果検証、利用時における問題点の把握を行った上で、市域や他都市に渡って展開をしていくことが必要である。

⑤既存の案内サインを活用した新たな観光システムの構築に伴う今後の課題

課題：事業実施体制の構築（協議会の設立）

社会実験を行うモデル地区として、石山地区を位置づけた場合においても、今後の事業の方向性や可能性等について、連携を図る地区や都市との調整が必要と考えられる。

まちめぐりナビプロジェクト（まちナビ）を活用した事業の実施にあたっては、「単一又は複数の地方公共団体または国の行政機関が設置する関係者からなる協議会」の設立が必要であることから、観光協会をはじめ、交通事業者（京阪）、行政、その他民間などからなる協議会を組織化することが必要となる。

課題：携帯電話を活用した観光案内動向の注視

本業務では、比較的シンプルなシステムであるQRコードを活用した観光案内情報を提案しているが、ユビキタスシステムや携帯電話を活用した機器は、日々進化をしていることから、その動向を注視し、目的やコストに合った最適なシステムを選択することが必要である。

<トピックス>

「位置情報を活用したターゲティング情報配信」に関する実証実験 2007年11月

出典：NTT ドコモホームページ

株式会社JTBパブリッシングと、NTTドコモは、「位置情報を活用したターゲティング情報配信」の市場性に関する実証実験を、2008年1月11日から3月30日まで、沖縄県、京都府において実施を予定。

実施事項においては、JTBパブリッシングが、ドコモが新たに開発した「位置情報を活用した情報配信システム」を利用し、JTBパブリッシングが保有する観光・レジャー、グルメ情報などのコンテンツを提供することにより、実証実験参加者に対して現在位置に関連した多彩な情報、利用者の行動履歴と属性に基づいて推奨するスポット情報を随時、配信することが可能となる。



＜QRコードを活用した観光案内情報システム構成における課題＞

課題：情報コンテンツの検討

情報コンテンツは、観光的な情報に加え、観光旅客者などへの積極的な利用を促すことにつなげるため、施設や交通機関等が提供するサービスなども視野にいられておくことが望ましい。

観光情報で考えられるコンテンツは、観光資源の由来や利用案内、開催されるイベント、リンク先などがあるが、各観光資源位置や現在地を示す地図などは、別途機関が運営するサイトを利用することなどが考えられる。

（事例）地図を用いた携帯電話サイト
出典：「みちまちナビ・御堂筋」国土交通省
大阪国道事務所 <http://mmnavi.jp/>

- ・アルプス社のサービスを利用
- ・緯度経度をサイト URL に展開することで位置情報を取得



課題：ウェブサイト及び読み取り媒体の整備

＜ウェブサイト＞

情報コンテンツの決定とともに、携帯電話を利用したウェブサイトの制作が必要となる。現在、大津市産業観光部観光振興課が運営する案内サイト「びわ湖大津・観光イベント情報」では、携帯電話や外国人（多言語）には対応していない（平成20年1月現在）。

同サイトを含め、携帯電話や多言語に対応したサイト作成も課題である。

＜読み取り情報＞

QRコードをはじめとした、読み取り媒体をどのように現地において設置するかなどの検討及び整備が必要である。

サイン、照明灯、その他市が管理する道路付属物などが、貼付対象として考えられるが、各種施設がどのような位置に設置されているかなどの整理とともに、関係機関との調整、協議、そして貼付という手順が必要である。



（写真）御堂筋の距離標

第Ⅲ章. 石山地区における案内誘導モデルの検討

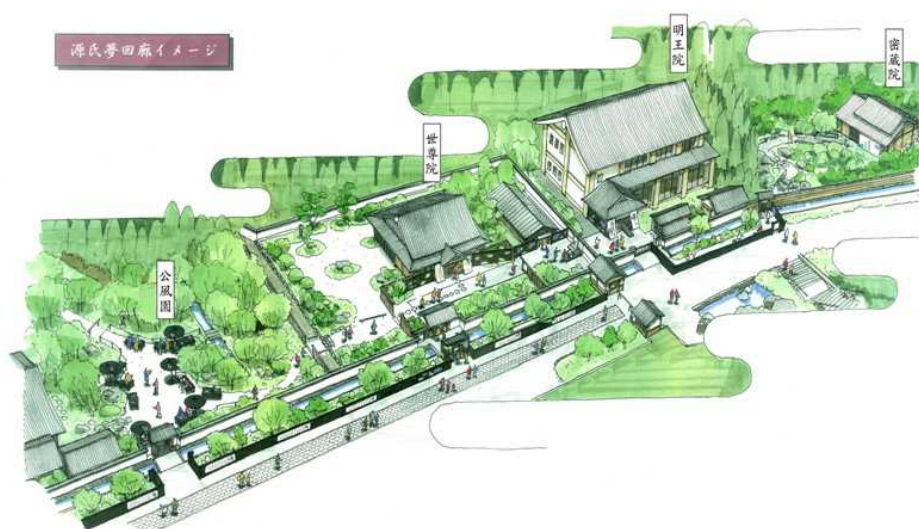
Ⅲ-1. 石山地区を対象地区とした案内誘導モデル

大津市における観光案内手法として、既存の案内サインやＩＴ機器を活用した新たな観光情報の提供方法を述べたが、全市での整備に先立ち、情報提供の手法としてその効果を実験、検証することが必要である。検証の結果、有効な手法と判断された場合において、全市や市域を含めた広域的な観光案内を行う情報として、今後展開していくことが望ましい。

大津市では２００８年（平成２０年）１１月に源氏物語の存在が記録上確認されてから一千年を迎えることから、同年３月より「源氏物語千年紀ｉｎ湖都大津事業」として、大津市石山地区を中心に多彩な取組を実施していくこととしている（平成２０年３月１８日～１２月１４日）。こうしたイベントにおいて、ＩＴ機器を活用した案内や誘導を行うことで、観光案内という主目的とともに、ウェブサイトへのアクセス状況などから観光旅客者が求める情報などを収集することが可能となる。

以上のことから、石山地区を案内誘導のモデル地区として位置づけ、以下に既存の案内サインやＩＴ機器を活用した新たな観光情報について検討を行うものとする。

イベントが実施される石山地区をモデルとした案内誘導手法の検証



（図表）源氏夢回廊 出典：源氏物語千年紀ｉｎ湖都大津実行委員会事務局（大津商工会議所）ホームページ

Ⅲ-2. 石山地区における観光の現状整理

(1) 石山地区の状況と観光振興に向けた課題

①観光振興の課題(「大津市観光振興計画基本調査 報告書」より抜粋)

石山地区は、紫式部にも縁がある石山寺を中心とする観光地であり、観光駐車場やお食事どころ、土産物販売、気品のあるお茶どころが充実し、全国的にも評価の高い地域である。

＜石山地区における観光振興の課題＞

- 石山寺界限だけで、施設見学から食事、休憩など観光目的が完結される地域であるため、周辺への波及が少ない（観光ネットワークを持たない）。
- 地域的な回遊性を高めるためには、ある広がりをもたせた車両系のマップの整備が必要。
- 観光施設を周回するバスの運行
- 紫式部との関係では、隣接する宇治市との広域連携を重要視すべきである。

②良質な風景の保全

大津市は全国 10 番目の古都として、2003 年（平成 15 年）10 月に政令指定されており、石山地区は、古都大津の歴史的風土を保存するため大津市歴史的風土保存区域として指定されている。

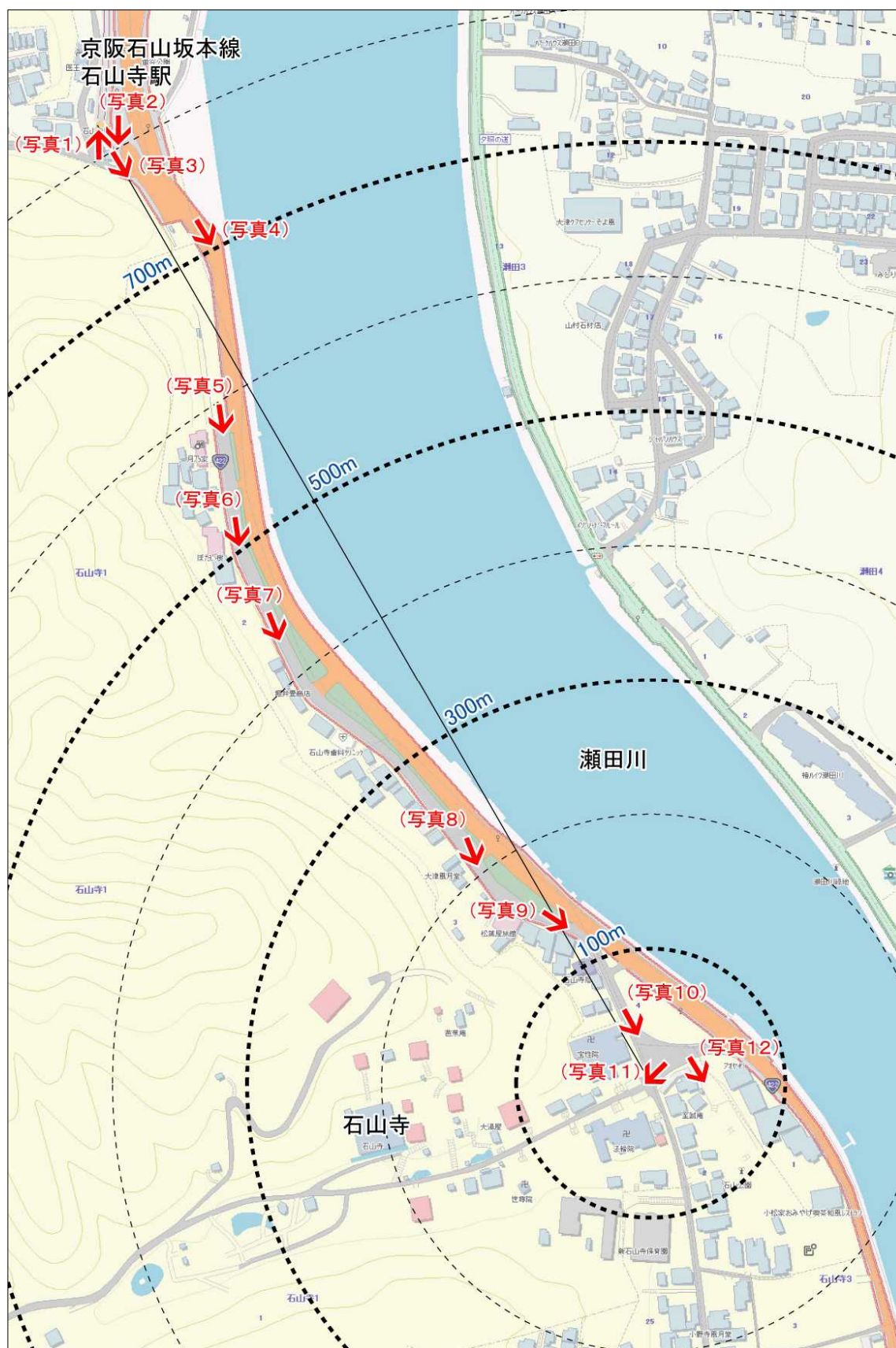
③京阪石山寺駅から石山寺までの円滑な誘導

石山観光協会でのヒアリングにおいて、京阪石山寺駅から石山寺までは約 800 メートルを有するため、観光旅客者に戸惑いを与えていることから、同ルートにおいて円滑な誘導を行うことが課題として述べられている（現地調査参照）。

＜現地調査概要＞

- 石山寺への誘導を行うサイン（灯籠形状）が点在
- 部分的に参道を感じさせる舗装が施されている（大津土木事務所整備）
- 桜の列植、瀬田川に沿った参道であるため、駅から寺への軸性は保たれている。

(2) 現地調査(石山寺参道／京阪石山寺～石山寺間)



(図表) 現地調査写真撮影位置



（写真1）京阪石山寺駅の状況



（写真2）京阪石山寺駅駅前広場



（写真3）参道風景（駅周辺交差点部）



（写真4）参道風景
既存石山寺誘導サイン



（写真5）参道風景



（写真6）参道風景



(写真7) 参道風景



(写真8) 参道風景
ブロック舗装が施されている



(写真9) 参道風景



(写真10) 参道風景
大津市案内サイン

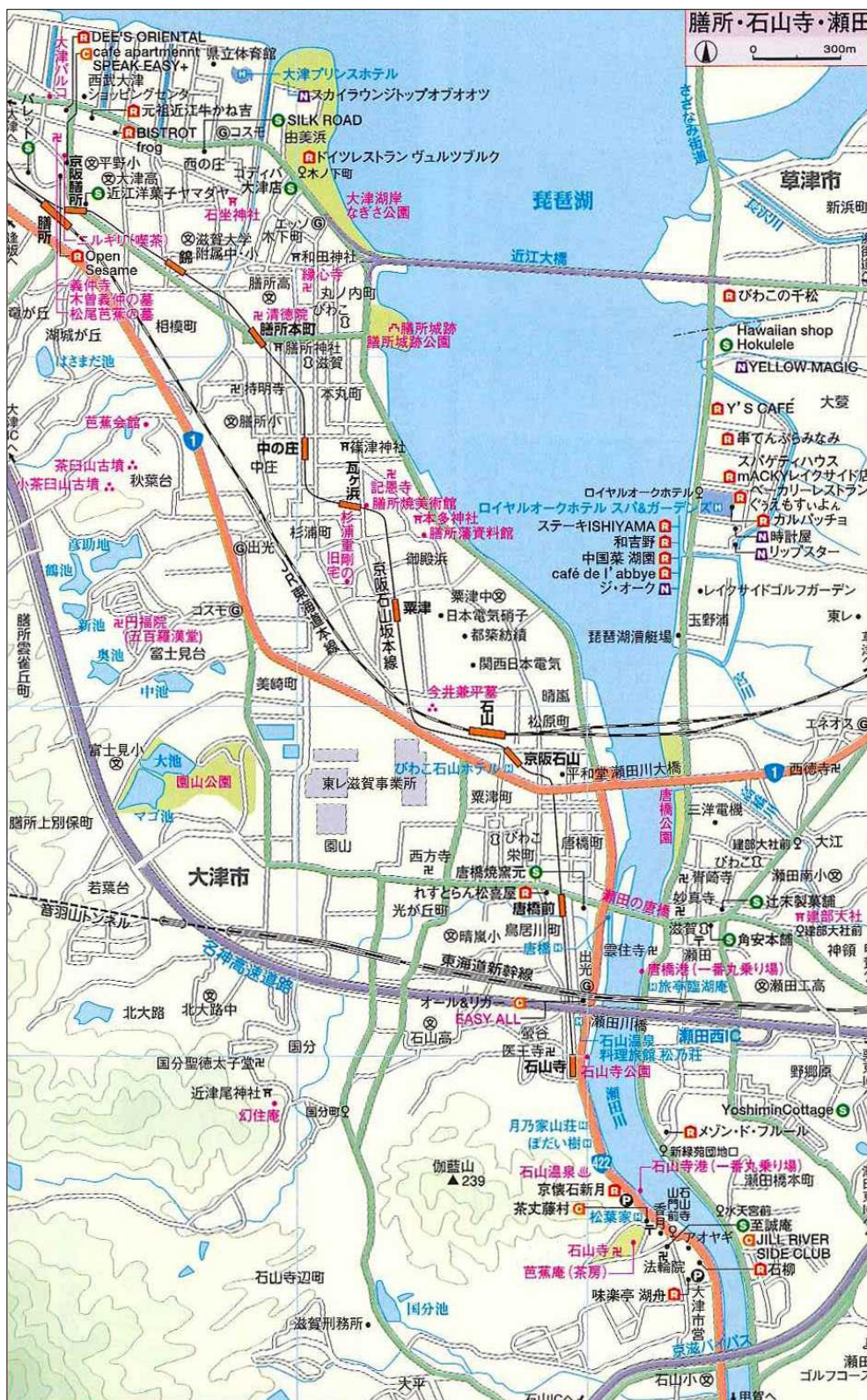


(写真11) 石山寺東大門



(写真12) 観光案内所周辺

(3) 石山寺及び周辺の観光資源



(図表) 石山地区状況図 出典：るるぶ「滋賀・びわ湖・若狭 07' ~08'」

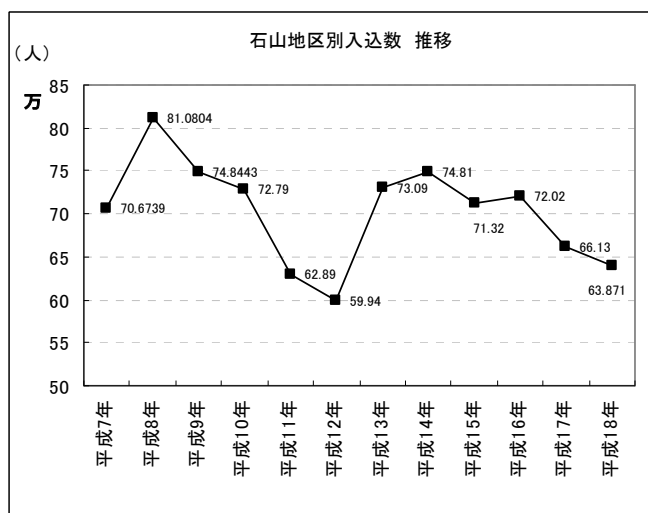
(4) 石山地区の観光状況（観光入込数の動向）

平成7年から平成18年までの石山地区の観光入込数は、平成8年の81万人をピークに減少し、平成13、14年に増加するが、再び減少傾向にある。

石山地区入込数一覧表 (単位:人)

	平成7年	平成8年	平成9年	平成10年
日帰り	665,476	767,904	706,117	690,500
宿泊	41,263	42,900	42,326	37,400
合計	706,739	810,804	748,443	727,900
	平成11年	平成12年	平成13年	平成14年
日帰り	602,100	571,500	704,600	724,200
宿泊	26,800	27,900	26,300	23,900
合計	628,900	599,400	730,900	748,100
	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年
日帰り	689,000	696,600	635,400	613,000
宿泊	24,200	23,600	25,900	25,710
合計	713,200	720,200	661,300	638,710

大津市地区別入込数一覧表(大津市観光振興課)



(図表) 石山地区入込数一覧表

出典:「大津市地区別入込数一覧表」大津市観光振興課資料

(5) 実態調査から見る石山地区の観光形態

<調査概要>

出典：「びわ湖大津観光旅行実態調査」

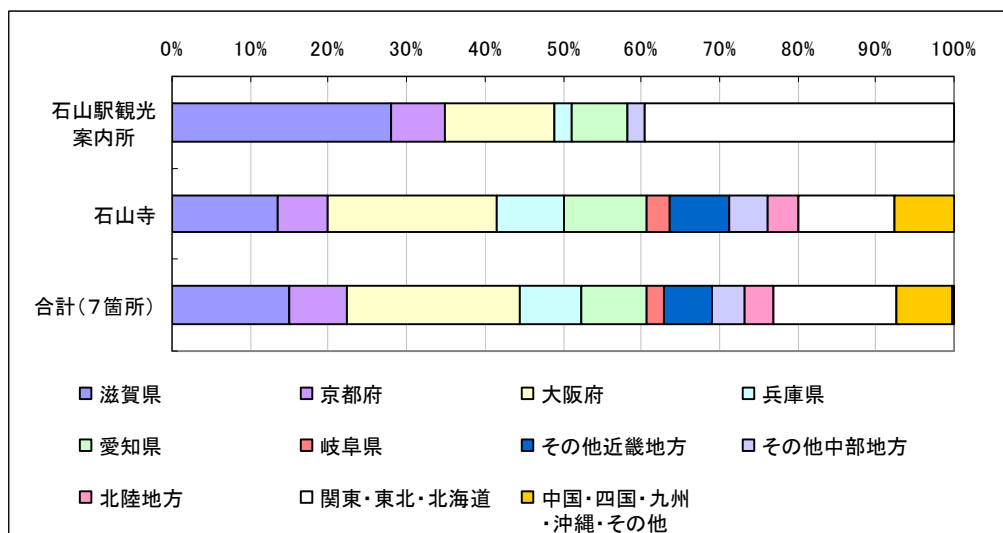
平成 18 年 11 月 1 日から 11 月 30 日までの 1 ヶ月間、観光旅行実態調査として観光旅客者にアンケート票を配布し、面接・自記入法による調査を実施。調査地域は志賀観光協会、観光案内所（堅田駅前、坂本、大津駅、石山駅）、湖族の郷資料館（堅田地区）、石山寺（石山地区）の市内 7 地点（総回答数は 1,821 件）。

以下に、当調査において、石山地区をピックアップし、地区観光のターゲット層を設定するデータとして属性を整理する。

①観光旅客者属性：居住地

- ・ 合計（市内 7 地点）、石山寺ともに大阪府からの来訪客が多い。

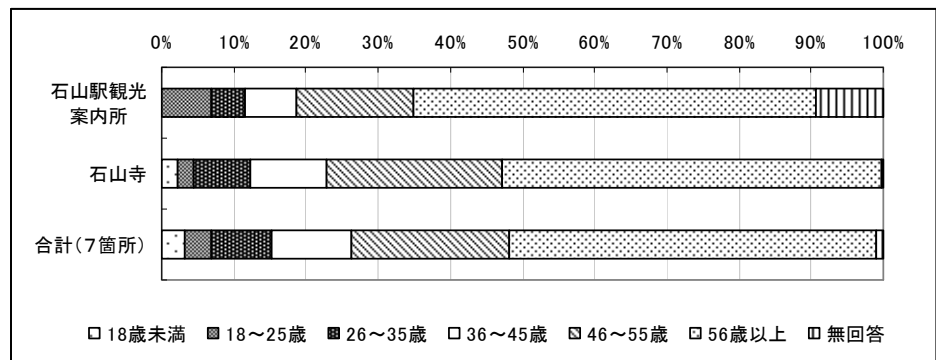
居住地	石山駅観光案内所	石山寺	合計(7箇所)
滋賀県	(実数) 12 (割合) 28%	172 14%	271 15%
京都府	(実数) 3 (割合) 7%	80 6%	134 7%
大阪府	(実数) 6 (割合) 14%	276 22%	404 22%
兵庫県	(実数) 1 (割合) 2%	107 8%	145 8%
愛知県	(実数) 3 (割合) 7%	136 11%	152 8%
岐阜県	(実数) 0 (割合) 0%	36 3%	38 2%
その他近畿地方	(実数) 0 (割合) 0%	96 8%	115 6%
その他中部地方	(実数) 1 (割合) 2%	62 5%	75 4%
北陸地方	(実数) 0 (割合) 0%	52 4%	65 4%
関東・東北・北海道	(実数) 17 (割合) 40%	154 12%	288 16%
中国・四国・九州・沖縄・その他	(実数) 0 (割合) 0%	97 8%	131 7%
無回答	(実数) 0 (割合) 0%	0 0%	3 0%
合計	43	1,268	1,821



②観光旅客者属性:年齢

- ・ 全てにおいて、56歳以上が多い。
- ・ 時間とお金を持つエルダー層が観光旅客者の半数を占めていると考えられる。

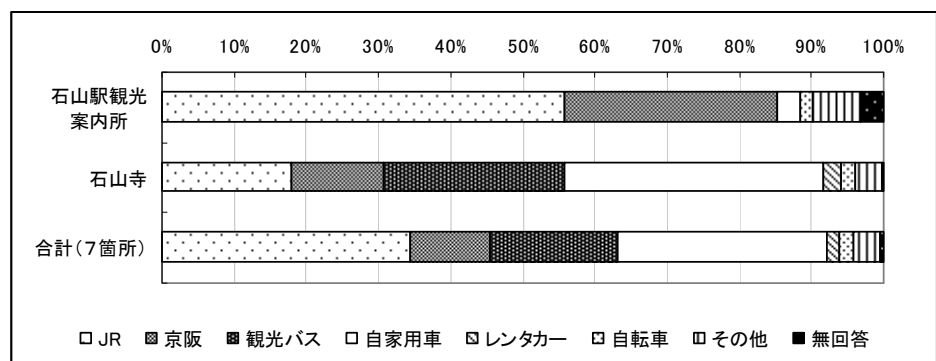
年齢		石山駅観光案内所	石山寺	合計(7箇所)
18歳未満	(実数)	0	29	56
	(割合)	0%	2%	3%
18～25歳	(実数)	3	26	69
	(割合)	8%	2%	4%
26～35歳	(実数)	2	102	153
	(割合)	6%	8%	8%
36～45歳	(実数)	3	134	202
	(割合)	8%	10%	10%
46～55歳	(実数)	7	306	399
	(割合)	19%	23%	21%
56歳以上	(実数)	24	668	926
	(割合)	67%	50%	48%
無回答	(実数)	4	3	16
	(割合)	11%	0%	1%
合計		43	1,268	1,821



③属性:交通手段

- ・ 石山寺は、自家用車での来訪（36%）が多く、京阪からの来訪は13%とJRよりも少ない数値となっている。

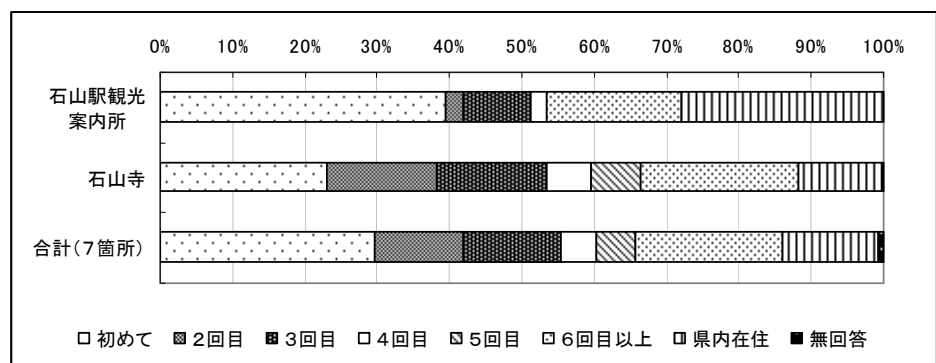
交通手段		石山駅観光案内所	石山寺	合計(7箇所)
JR	(実数)	34	244	671
	(割合)	56%	18%	34%
京阪	(実数)	18	176	215
	(割合)	30%	13%	11%
観光バス	(実数)	0	343	349
	(割合)	0%	25%	18%
自家用車	(実数)	2	490	565
	(割合)	3%	36%	29%
レンタカー	(実数)	0	32	33
	(割合)	0%	2%	2%
自転車	(実数)	1	29	38
	(割合)	2%	2%	2%
その他	(実数)	4	49	71
	(割合)	7%	4%	4%
無回答	(実数)	2	4	12
	(割合)	3%	0%	1%
合計		61	1,367	1,954



④大津に来た回数

- 石山寺において大津を初めて訪れた観光旅客者は、他の場所と比較し23%と少ない。

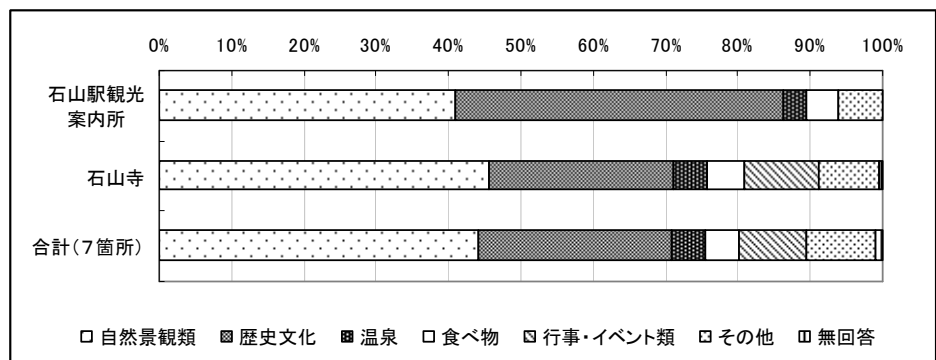
大津に来た回数		石山駅観光案内所	石山寺	合計(7箇所)
初めて	(実数)	17	293	539
	(割合)	40%	23%	30%
2回目	(実数)	1	192	226
	(割合)	2%	15%	12%
3回目	(実数)	4	193	242
	(割合)	9%	15%	13%
4回目	(実数)	1	77	91
	(割合)	2%	6%	5%
5回目	(実数)	0	86	96
	(割合)	0%	7%	5%
6回目以上	(実数)	8	277	373
	(割合)	19%	22%	20%
県内在住	(実数)	12	147	239
	(割合)	28%	12%	13%
無回答	(実数)	0	3	15
	(割合)	0%	0%	1%
合計		43	1,268	1,821



⑤旅行目的

- 石山寺をはじめ、旅行目的は「自然景観類」が多く見られる。
- 石山寺周辺には、石山温泉があり旅館が点在しているが、「温泉」という回答が5%と少ないものになっている。

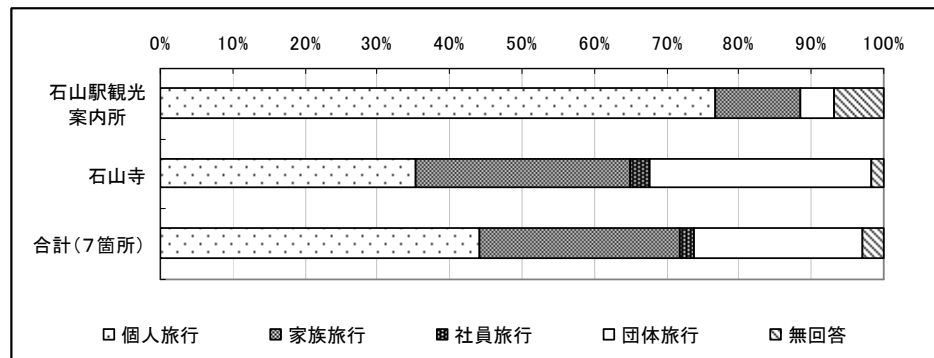
旅行目的		石山駅観光案内所	石山寺	合計(7箇所)
自然景観類	(実数)	27	749	1,049
	(割合)	41%	46%	44%
歴史文化	(実数)	30	417	635
	(割合)	45%	25%	27%
温泉	(実数)	2	77	109
	(割合)	3%	5%	5%
食べ物	(実数)	3	83	110
	(割合)	5%	5%	5%
行事・イベント類	(実数)	0	169	223
	(割合)	0%	10%	9%
その他	(実数)	4	134	226
	(割合)	6%	8%	10%
無回答	(実数)	0	10	22
	(割合)	0%	1%	1%
合計		66	1,639	2,374



⑥旅行形態

- 石山寺は、他の地点と比較し、「個人旅行」が少なく35%で、「団体旅行」31%と多くなっている。

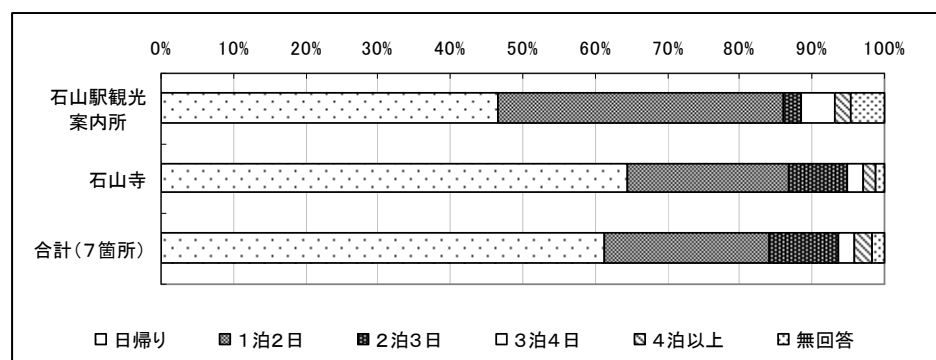
旅行形態		石山駅観光案内所	石山寺	合計(7箇所)
個人旅行	(実数)	33	447	804
	(割合)	77%	35%	44%
家族旅行	(実数)	5	378	503
	(割合)	12%	30%	28%
社員旅行	(実数)	0	32	37
	(割合)	0%	3%	2%
団体旅行	(実数)	2	388	424
	(割合)	5%	31%	23%
無回答	(実数)	3	23	53
	(割合)	7%	2%	3%
合計		43	1,268	1,821



⑦旅行期間

- 石山寺は、他の地点と比較し日帰り客が多く65%を占め、宿泊客が少ない状況にある。

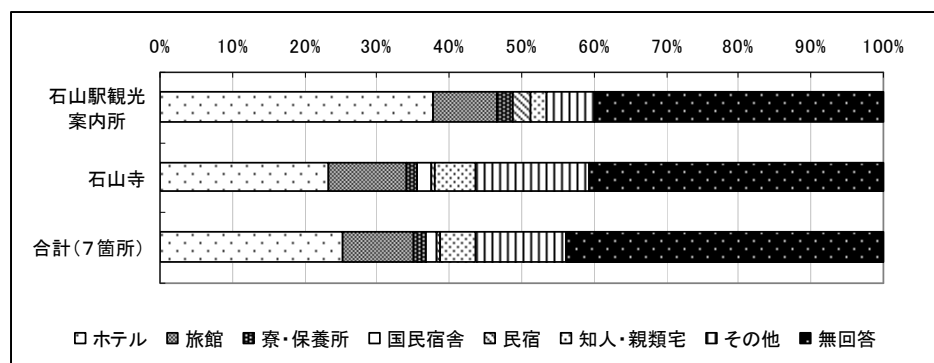
旅行期間		石山駅観光案内所	石山寺	合計(7箇所)
日帰り	(実数)	20	818	1,116
	(割合)	47%	65%	61%
1泊2日	(実数)	17	281	415
	(割合)	40%	22%	23%
2泊3日	(実数)	1	103	174
	(割合)	2%	8%	10%
3泊4日	(実数)	2	28	42
	(割合)	5%	2%	2%
4泊以上	(実数)	1	24	42
	(割合)	2%	2%	2%
無回答	(実数)	2	14	32
	(割合)	5%	1%	2%
合計		43	1,268	1,821



⑧利用宿泊施設

- 石山寺への参道には、旅館が点在しているが、利用宿泊施設で「旅館」と回答した人は11%にとどまっている。

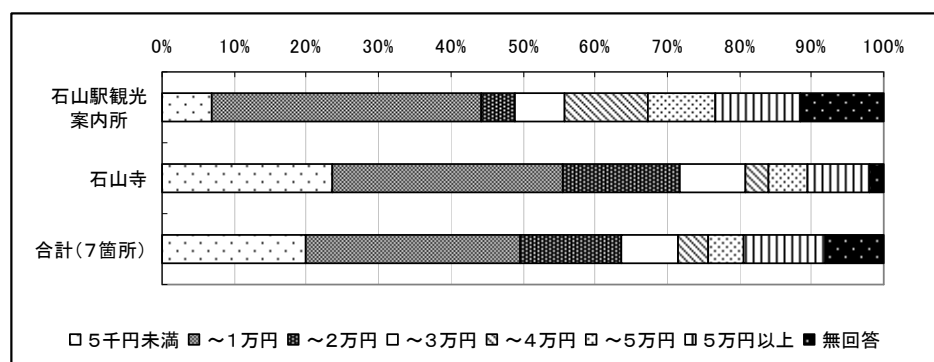
利用宿泊施設		石山駅観光案内所	石山寺	合計(7箇所)
ホテル	(実数)	17	304	473
	(割合)	38%	23%	25%
旅館	(実数)	4	142	184
	(割合)	9%	11%	10%
寮・保養所	(実数)	1	17	32
	(割合)	2%	1%	2%
国民宿舎	(実数)	0	26	26
	(割合)	0%	2%	1%
民宿	(実数)	1	6	7
	(割合)	2%	0%	0%
知人・親類宅	(実数)	1	76	92
	(割合)	2%	6%	5%
その他	(実数)	3	204	237
	(割合)	7%	16%	13%
無回答	(実数)	18	531	818
	(割合)	40%	41%	44%
合計		45	1,306	1,869



⑨予算

- 石山寺と他の地点を含めた合計の差は余り見られない。

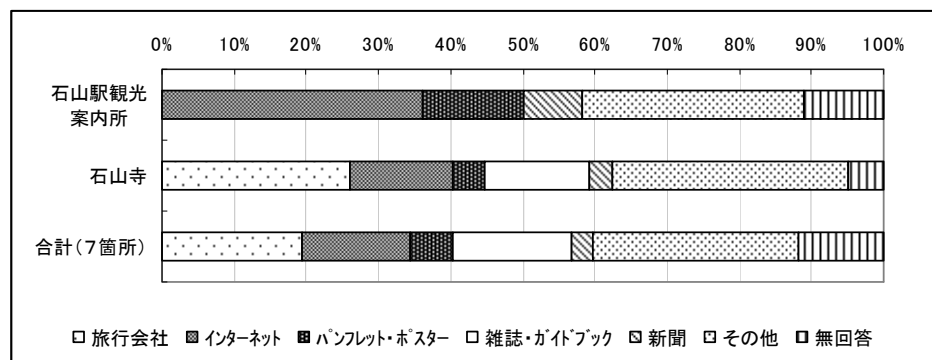
予算		石山駅観光案内所	石山寺	合計(7箇所)
5千円未満	(実数)	3	299	363
	(割合)	7%	24%	20%
～1万円	(実数)	16	405	542
	(割合)	37%	32%	30%
～2万円	(実数)	2	205	253
	(割合)	5%	16%	14%
～3万円	(実数)	3	115	144
	(割合)	7%	9%	8%
～4万円	(実数)	5	43	74
	(割合)	12%	3%	4%
～5万円	(実数)	4	67	92
	(割合)	9%	5%	5%
5万円以上	(実数)	5	109	206
	(割合)	12%	9%	11%
無回答	(実数)	5	25	147
	(割合)	12%	2%	8%
合計		43	1,268	1,821



⑩旅行プランの決定

- 石山寺は、「旅行会社」という回答が他の地点と比較し26%と多い。
- 「パンフレット」などをはじめとした紙面の広報媒体は他地点を含め少ない。

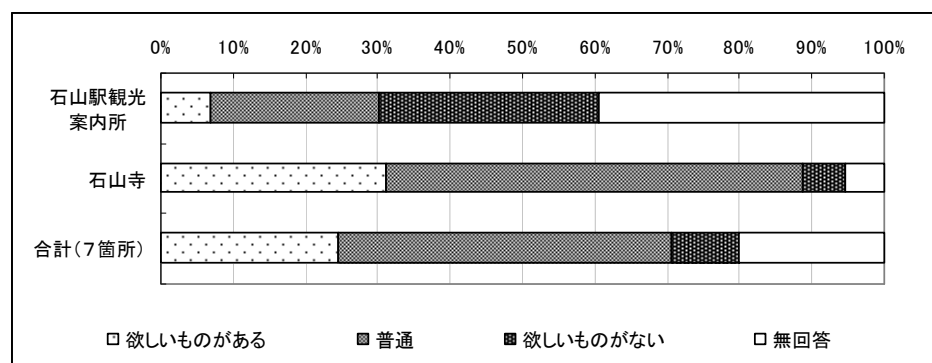
旅行プランの決定		石山駅観光案内所	石山寺	合計(7箇所)
旅行会社	(実数)	0	349	377
	(割合)	0%	26%	19%
インターネット	(実数)	13	188	289
	(割合)	36%	14%	15%
パンフレット・ポスター	(実数)	5	59	114
	(割合)	14%	4%	6%
雑誌・ガイドブック	(実数)	0	194	319
	(割合)	0%	15%	16%
新聞	(実数)	3	43	55
	(割合)	8%	3%	3%
その他	(実数)	11	436	554
	(割合)	31%	33%	29%
無回答	(実数)	4	67	228
	(割合)	11%	5%	12%
合計		36	1,336	1,936



⑪土産品について

- 石山寺の土産品について、「欲しいものがある」という回答は他の地点と比較し多くなっているが、「普通」と回答した人も同様に多く見られる。

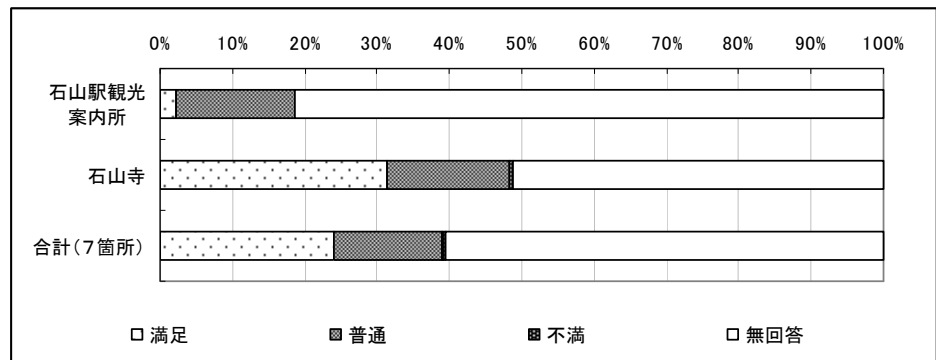
土産品について		石山駅観光案内所	石山寺	合計(7箇所)
欲しいものがある	(実数)	3	396	447
	(割合)	7%	31%	25%
普通	(実数)	10	728	839
	(割合)	23%	57%	46%
欲しいものがない	(実数)	13	75	170
	(割合)	30%	6%	9%
無回答	(実数)	17	69	365
	(割合)	40%	5%	20%
合計		43	1,268	1,821



⑫観光満足度

- 石山寺は、他の地点と比較しやや高い満足度であるが、無回答の影響もあり、普通を含め5割に満たないものとなっている。

観光満足度		石山駅観光案内所	石山寺	合計(7箇所)
満足	(実数)	1	397	437
	(割合)	2%	31%	24%
普通	(実数)	7	215	274
	(割合)	16%	17%	15%
不満	(実数)	0	5	7
	(割合)	0%	0%	0%
無回答	(実数)	35	651	1,103
	(割合)	81%	51%	61%
合計		43	1,268	1,821



(6) 石山地区における観光状況の整理と今後の課題

「びわ湖大津観光旅行実態調査」の結果から、観光旅客者属性と石山寺（石山地区）の観光状況から見る問題点を以下に整理する。

【観光旅客者属性】

- ◆ 石山寺を訪れる観光旅客者は、大阪から自家用車で来訪。
- ◆ 年齢は56歳以上という層が多く見られる。

【問題点】

- ◆ 石山地区は、大津市における数少ない温泉地であるが、温泉を目的とした観光旅客者は少なく、日帰り客が多い結果となっている。

【今後の課題】

同調査から、以下に石山地区の観光施策における課題を整理する。

他地区と連携した観光ネットワークの形成

石山地区は、大津市における数少ない温泉地という特性を活かした地区の活性化が考えられるが、宿泊施設数が雄琴地区や浜大津地区などと比較し少ないこともあり、温泉を主としたテ誘客は現状において困難な状況にある。

「Ⅲ－２．石山地区における観光の現状整理」で述べた通り、観光ネットワークを持たないことが地区の問題であり、更なる誘客を高めていくためには、他の地区と連携した観光ネットワークの形成が課題としてあげられる。

Ⅲ-3. 石山地区における案内誘導モデルの検討

(1) 案内誘導手法及びサイン整備の考え方

①石山寺参道の状況

京阪石山寺駅では、駅施設に地区を案内する情報媒体が多数配置されているほか、駅から石山寺までの約700m区間において、灯籠型の誘導サインが短い区間では100m間隔で設置されている（現地調査（石山寺参道／京阪石山寺～石山寺間）参照）。

②空間系サインとIT機器の活用

石山寺地区は、大津市歴史的風土保存区域及び大津市歴史的風土特別保存地区として指定されている。

（写真）石山寺境内に設置された
歴史的風土保存区域のサイン



（参考）「歴史的風土の保存とは」 出典：大津市ホームページ（古都大津の景観づくり）

古都における歴史的風土を保存するために、国は必要な土地の区域を「歴史的風土保存区域」として決定し、歴史的風土保存計画を策定します。また、府県知事（政令市は市長）は、歴史的風土保存区域のうち、歴史的風土を保存する上で、枢要な部分を構成している地域を「歴史的風土特別保存地区」として都市計画決定することができます。これらの区域及び地区では、古都保存法に基づき行為の制限が行われます。

目的地までの誘導方法は大きく、地図や文字情報を掲載した案内板などの情報系サインによる誘導、石畳や植栽の列植などの空間的な要素による誘導（以下「空間系サイン」という）に分類される。

情報系サインは、利用者が直接その位置や周辺の情報などを理解、取得することが可能であるが情報量によってサイン盤面や構造といった形状ボリュームを要することから、サインの設置によってその優良な風景を阻害する恐れがある。良質な風景や街並みそのものは観光資源であることから、こうした問題点を考慮し、誘導方法を検討することが必要である。

＜既存の空間系サイン＞

現在の参道を見ると、①舗装整備（北部未着手）と②桜の列植（写真参照）、③瀬田川などが空間系サインとして、駅から石山寺までの軸景観を形成しているが、こうした空間系サインは、日本人をはじめ外国人観光旅客者にも文字を使わずに誘導を行うことが可能であるほか、新たな構造物の整備が不要となる。

但し、空間系サインの案内機能は、軸景観を活用した誘導のみであるため、イベントなどの情報を伝えることは不可能であることから、少ない情報面で多くの情報を提供できる仕組みづくりが必要となる。



（写真）軸景観を形成している桜の列植

こうした考え方から、石山寺地区内における情報の提供方法については、先述した空間系サインをより際立たせるとともに、大きな施設を必要とせず少ない掲示面積で多くの情報を与えることのできる、携帯電話をはじめとしたIT機器を活用することが考えられる（詳細「Ⅱ－２．観光案内ネットワークの検討～（４）大津市における観光案内手法の検討」参照）。

駅から石山寺までの誘導手法	
①空間系サインによる誘導	②IT 機器による誘導
 <p>（写真）石山寺境内においても石畳が軸を形成空間を形成する要素を連続させることで、誘導軸が形成される。</p>	 <p>（写真）御堂筋の距離標 既存施設に、ウェブサイトへアクセスする QR コードを併記。</p>

(2) 案内誘導手法の検討

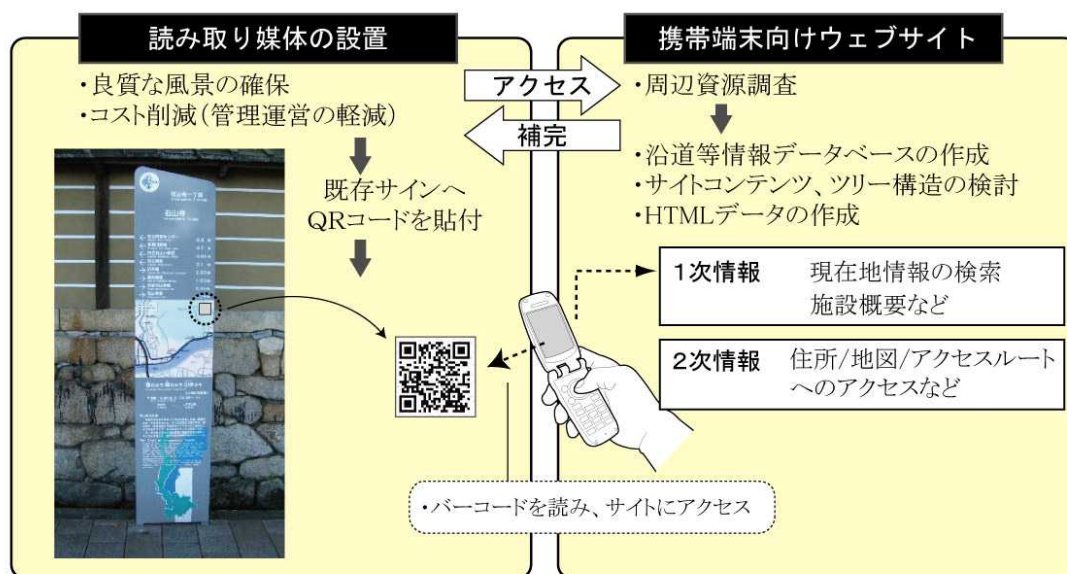
①空間系サイン

参道の軸を形成する、舗装整備（北部未着手）、桜の列植、瀬田川を空間系サインとして位置づける。

要素	軸景観形成に向けた課題・整備案
舗装	・未着手区間の早期実現
桜の列植	・夜間ライトアップ
瀬田川	・高木などの植栽整備 など

②IT機器の活用

- ◆ 携帯端末用のウェブサイトの立ち上げ
- ◆ サイトアドレス読み取り用のQRコードを既存サイン等に据え付け（地図や地区観光情報を観光旅客者に提供）
- ◆ 石山寺境内には、高札をモチーフとしたサインなどがあるため、簡単なシールなどを貼付することで、対応が可能。



(図表) IT機器を活用した観光情報の提供（再掲）

＜参道での展開手法＞

参道については、情報を貼付する施設が少ないことから、沿道店舗の看板や店先などにシール貼付の協力を依頼し、地区が一体となって観光案内を行っていく、観光旅客者を受け入れるといったおもてなしの心を一丸となって醸成させていくことが望まれる。

また、シールの貼付以外に、観光案内の情報媒体などを提供する情報ステーションとすることで、観光旅客は情報の収集とともに店舗を利用するといった相乗効果が期待できる。

（写真）石山寺参道の
沿道に面した店舗



（図表）観光情報
ステーションイメージ

